

「医薬品副作用被害救済制度に関する認知度調査」
調査報告書
〈〈一般国民〉〉

平成25年度調査分

 独立行政法人医薬品医療機器総合機構 健康被害救済部

目次（その1）

■ 調査概要	．．．．．	P 4
■ 対象者のプロフィール	．．．．．	P 5
■ Summary	．．．．．	P 6
■ 調査結果	．．．．．	P 13
Q 1	過去1年間 医療機関にかかった経験	P 14
Q 2	過去1年間 入院・通院経験	P 15
Q 3	過去1年間 主に利用した医療機関の規模	P 16
Q 4	過去1年間 主に利用した病院種別	P 17
Q 5	過去1年間 医薬品使用経験	P 18
Q 6	過去1年間 医薬品入手経路	P 19
Q 7	医薬品副作用被害救済制度 認知率	P 20
Q 8	生物由来製品感染等被害救済制度 認知率	P 21
Q 9	医薬品副作用被害救済制度 内容認知（全体）	P 22
Q 9	医薬品副作用被害救済制度 内容認知（性・年代別）	P 23
Q 10	医薬品副作用被害救済制度 認知経路	P 24
Q 11	医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人	P 25
Q 12	医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所	P 26
Q 13	広告の認知率	P 27
Q 14	広告の接触媒体	P 28
Q 15	広告の評価（全体）	P 29
Q 15	広告の評価（性・年代別）	P 30

目次（その2）

Q 1 6	テレビCMの認知率	P 3 1
Q 1 7	テレビCMの視聴回数	P 3 2
Q 1 8	テレビCMの評価（全体）	P 3 3
Q 1 8	テレビCMの評価（性・年代別）	P 3 4
Q 1 9	キャラクターの評価（全体）	P 3 5
Q 1 9	キャラクターの評価（性・年代別）	P 3 6
Q 2 0	医薬品副作用被害救済制度 関心度	P 3 7
Q 2 1	制度周知方法	P 3 8
Q 2 2	副作用の経験（本人）	P 3 9
Q 2 3	副作用で治療を受けた経験	P 4 0
Q 2 4	医薬品副作用被害救済制度を利用した経験	P 4 1
Q 2 5	医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由	P 4 2
Q 2 6	医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法	P 4 3
Q 2 7	医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向	P 4 4
Q 2 8	医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由	P 4 5
付録	調査票	P 4 6

調査概要

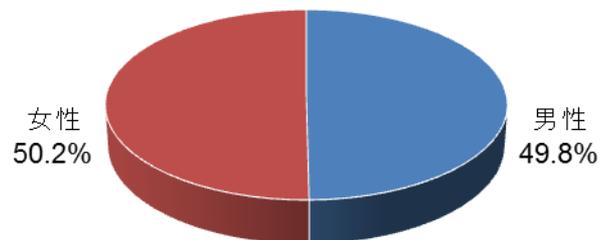
- ・ 調査目的 医薬品副作用被害救済制度の浸透度を把握し、今後の基礎資料とする
- ・ 調査対象 20歳以上の男女
- ・ 調査地域 全国
- ・ 調査方法 インターネット調査
- ・ 調査時期 平成25年度調査 平成26年1月27日(月)～1月30日(木)
平成24年度調査 平成25年3月19日(火)～3月21日(木)
- ・ 有効回答数 3,118 サンプル

		平成25年度	平成24年度
1	男性/20-29才	312	307
2	男性/30-39才	311	312
3	男性/40-49才	308	308
4	男性/50-59才	310	314
5	男性/60才以上	311	310
6	女性/20-29才	309	311
7	女性/30-39才	318	311
8	女性/40-49才	307	314
9	女性/50-59才	320	314
10	女性/60才以上	312	313
全体		3,118	3,114

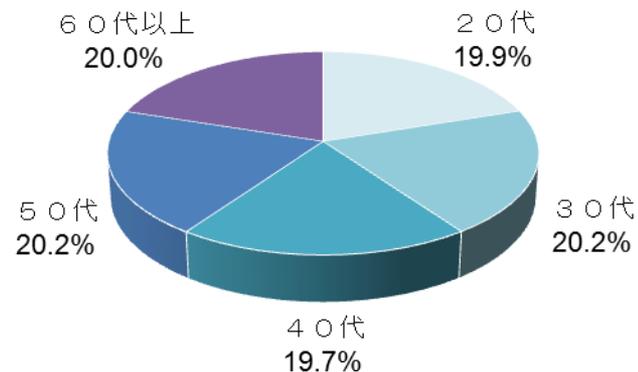
- ・ 調査実施機関 株式会社インテージ
-

対象者のプロフィール (n=3,118)

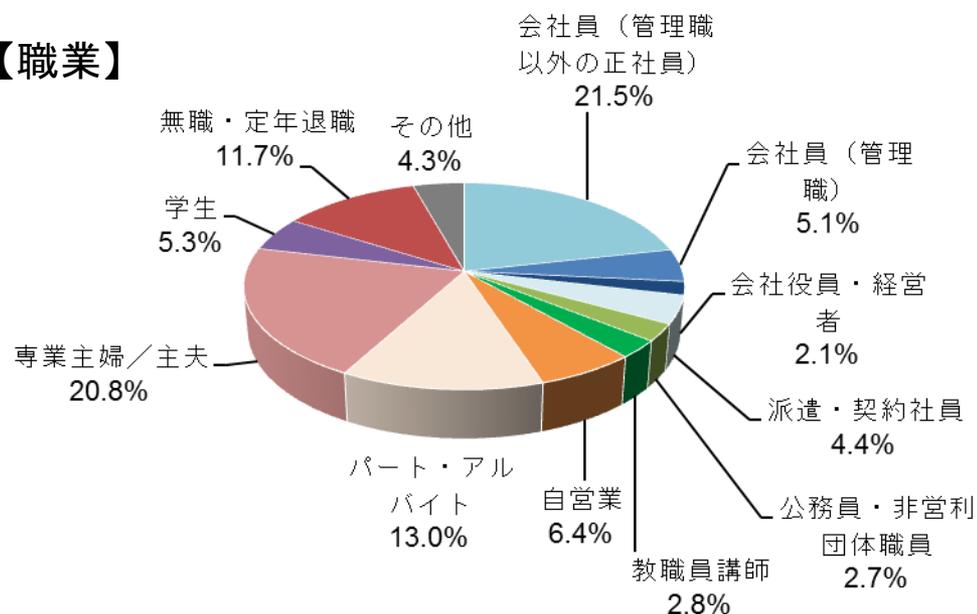
【性別】



【年代】



【職業】



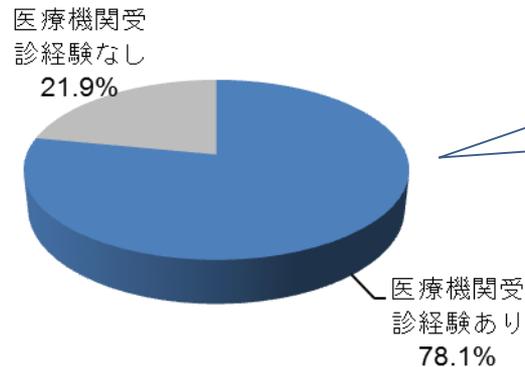
※「大学生、大学院生、専門学校生、短大生、予備校生」「高校生」をあわせて「学生」とし、「SOHO」「その他専門職（弁護士、会計士、税理士など）」「農林漁業」「内職」「その他の職業」をあわせて「その他」とした。

Summary

【過去1年間 医療機関にかかった経験】

(n=3,118)

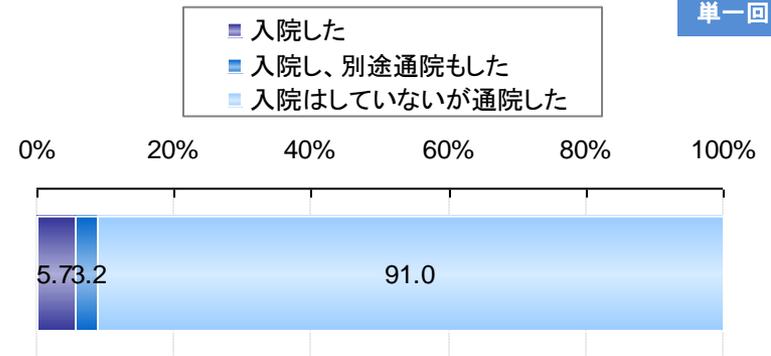
単一回答



【過去1年間 入院・通院経験】

(n=2,435)

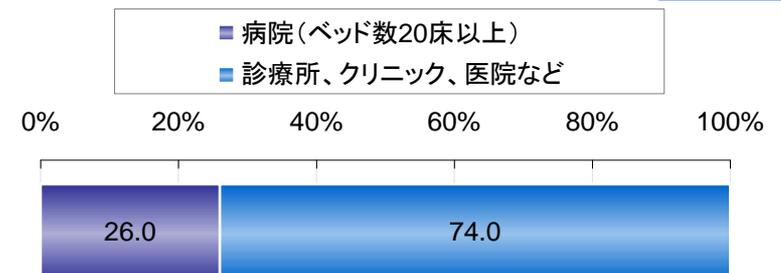
単一回答



【過去1年間 利用した医療機関の規模】

(n=2,435)

単一回答



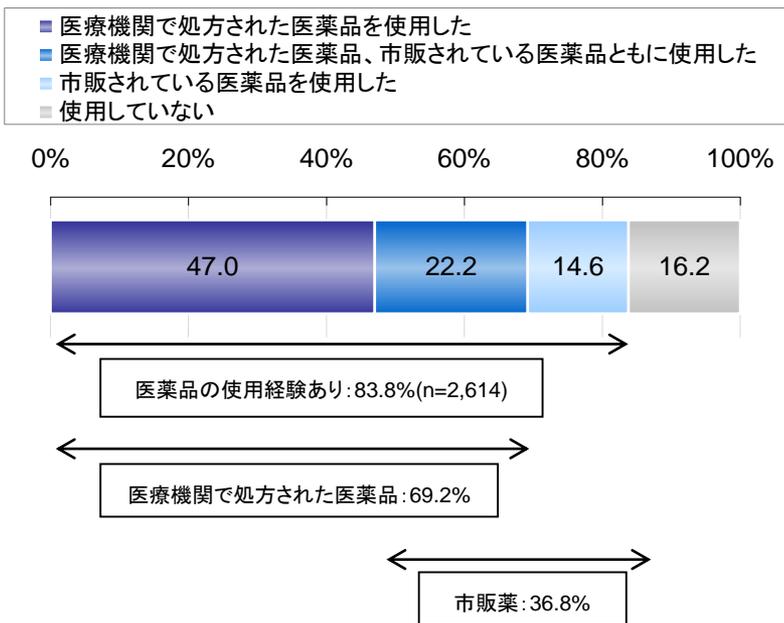
・過去1年間の医療機関への受診経験者は78%。そのうち、入院経験者は9%。

Summary

【過去1年間 医薬品使用経験】

単一回答

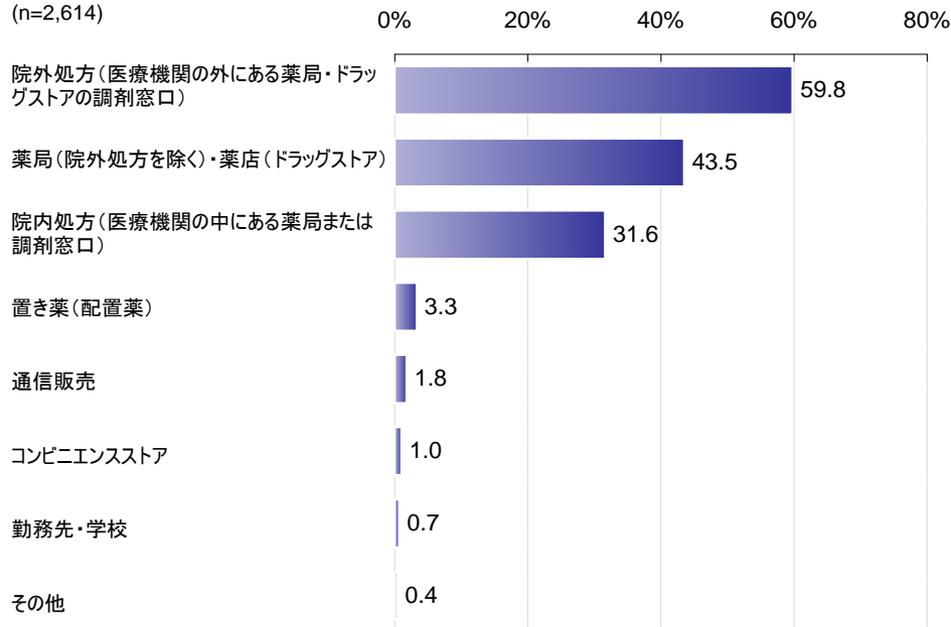
(n=3,118)



【過去1年間 医薬品入手経路】

複数回答

(n=2,614)



・過去1年間に医薬品の使用経験があるのは84%。「医療機関で処方された医薬品」の使用経験があるのは69%。

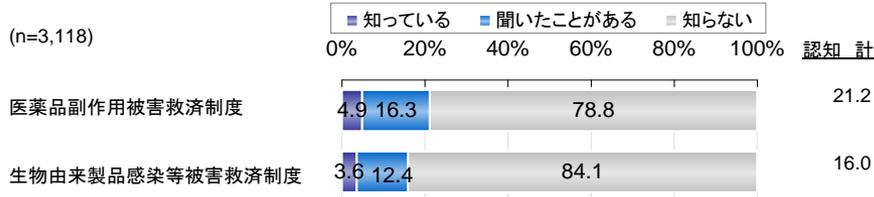
・医薬品の主な入手先は「院外処方」60%、「薬局・薬店」44%、「院内処方」32%。

Summary

【健康被害救済制度 認知率】

単一回答

(n=3,118)



【健康被害救済制度 内容認知】

単一回答

医薬品副作用被害救済制度認知者ベース
(n=661)

医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である

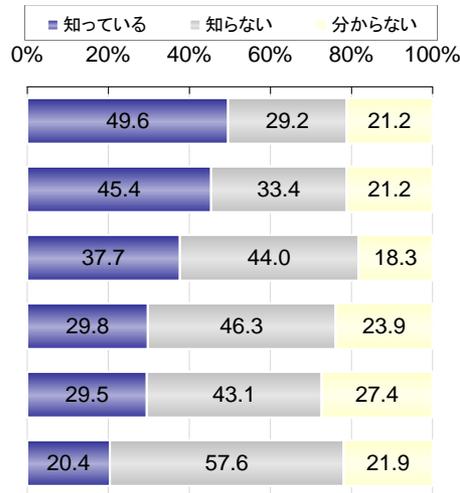
医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

救済給付の請求には、医師が作成した診断書などが必要である

救済給付の種類にはいくつかの種類がある

入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある

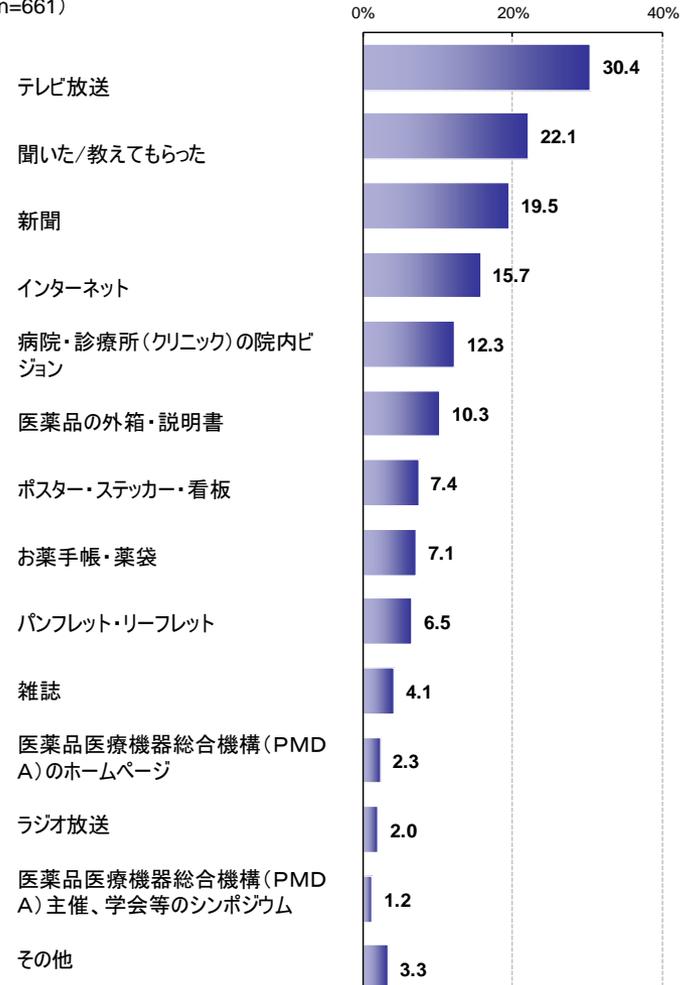


- ・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は21%、生物由来製品感染等被害救済制度の認知率は16%。
- ・医薬品副作用被害救済制度の認知経路で最も多いのは「テレビ放送」が30%。次いで「聞いた／教えてもらった」(22%)、「新聞」(20%)、「インターネット」(16%)。

【健康被害救済制度 認知経路】

複数回答

医薬品副作用被害救済制度認知者ベース
(n=661)

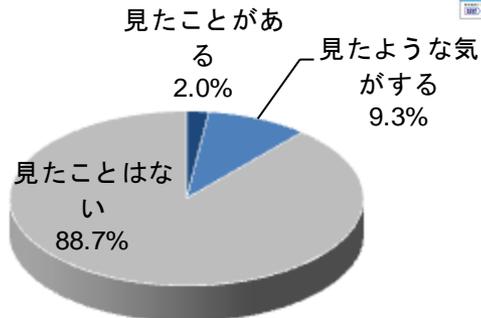


Summary

【広告 認知率】

見たことがある＋
見たような気がする
計 11.3%

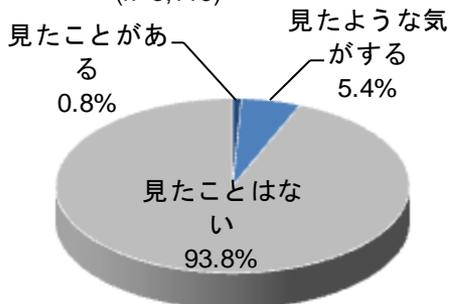
(n=3,118)



【テレビCM 認知率】

見たことがある＋
見たような気がする
計 6.2%

(n=3,118)



ポスター



単一回答

バナー



新聞広告



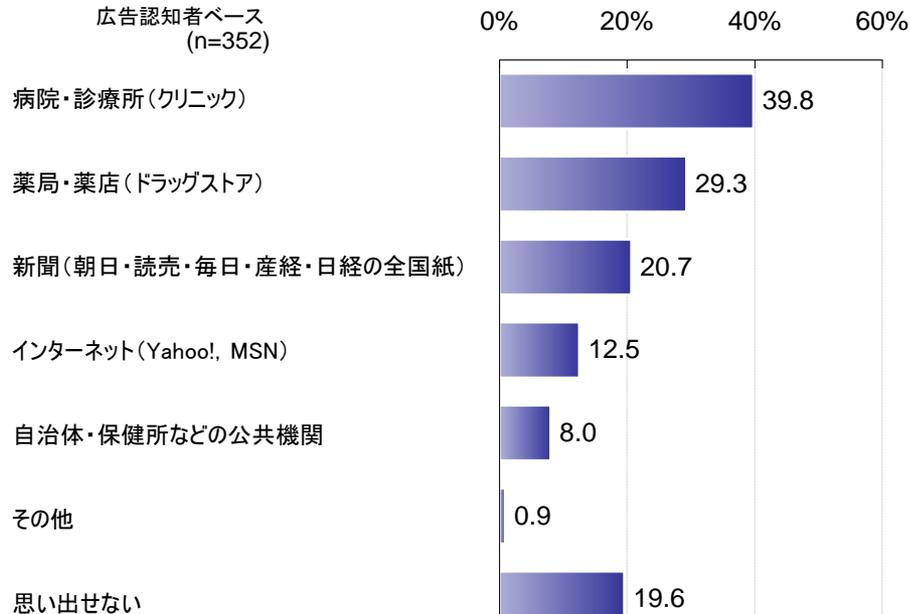
単一回答



【広告 上位媒体】

複数回答

広告認知者ベース
(n=352)

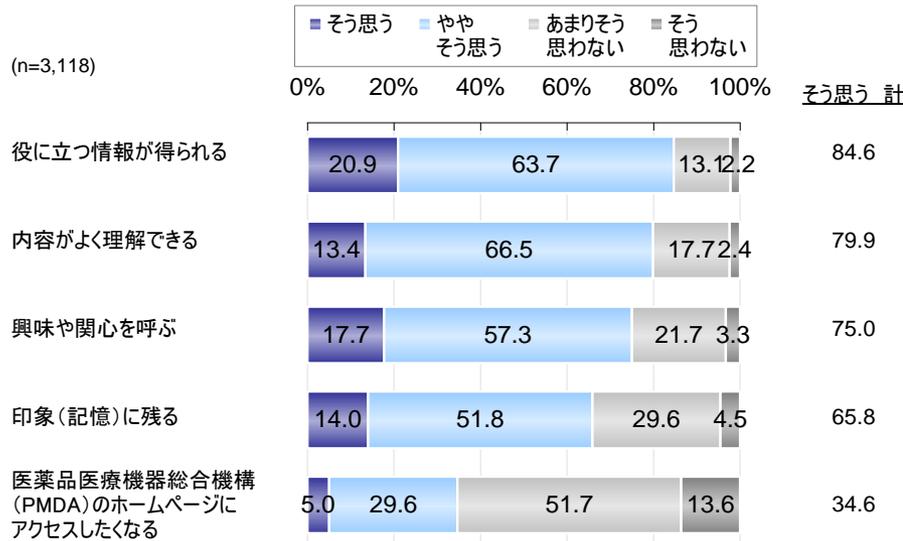


- ・広告の認知率(見たことがある＋見たような気がする)は11%。
- ・主な認知媒体は「病院・診療所(クリニック)」40%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」29%、新聞(全国紙)21%、「インターネット」13%。
- ・テレビCMの認知率(見たことがある＋見たような気がする)は6%。

Summary

【広告の評価】

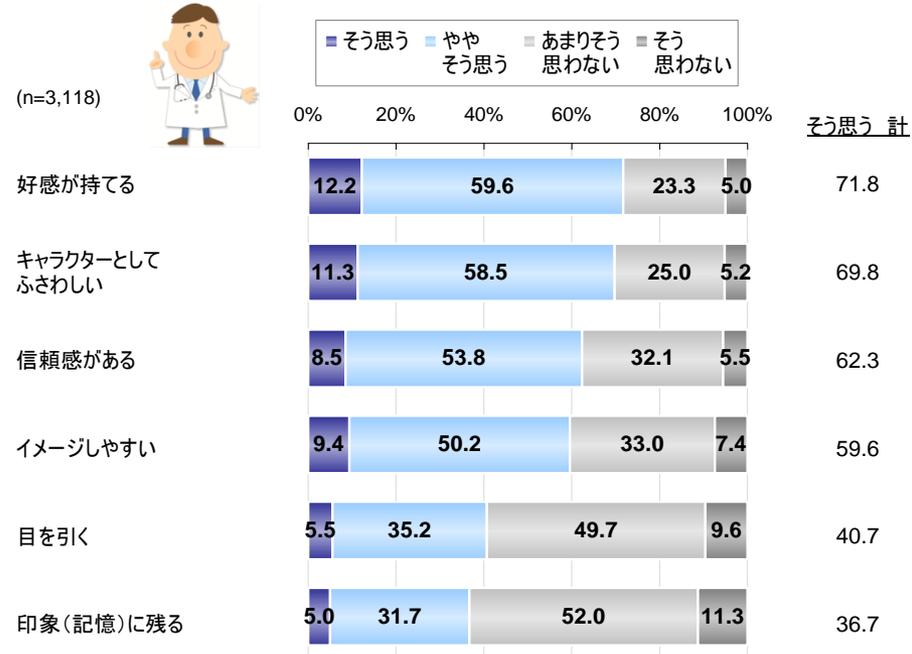
(n=3,118)



【キャラクターの評価】

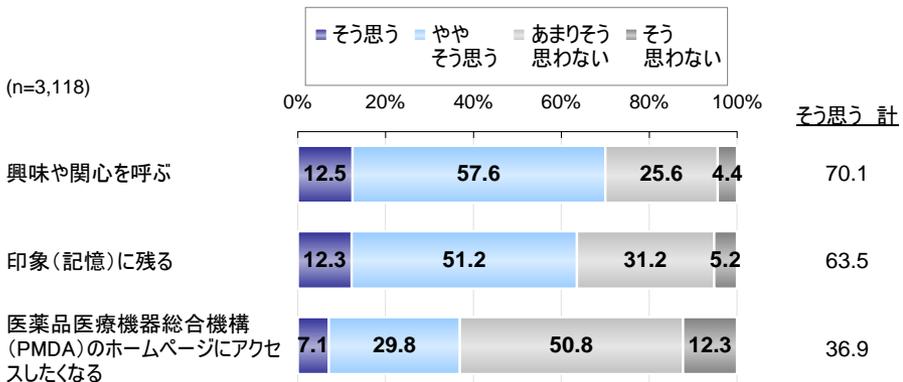
単一回答

(n=3,118)



【テレビCMの評価】

(n=3,118)



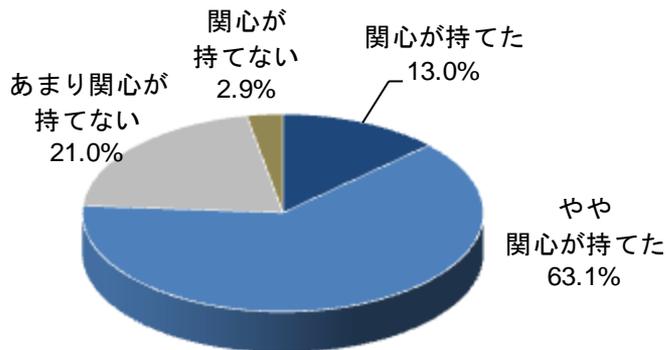
- ・広告の評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「役に立つ情報が得られる」85%。以下、「内容がよく理解できる」80%、「興味や関心と呼ぶ」75%。
- ・テレビCMの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「興味や関心と呼ぶ」70%。以下、「印象(記憶)に残る」64%、「ホームページにアクセスしなくなる」37%。
- ・キャラクターの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高かった項目は「好感が持てる」72%。以下、「キャラクターとしてふさわしい」70%、「信頼感がある」62%。

【医薬品副作用被害救済制度 関心动】



単一回答

(n=3,118)

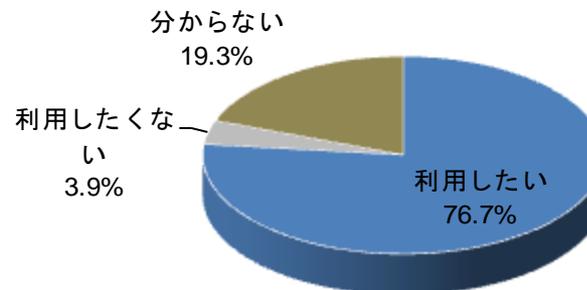


関心を持たた 計 76.1%

【医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向】

単一回答

(n=3,118)



- ・医薬品副作用被害救済制度への関心动(関心を持たた+やや関心を持たた)は76%。
- ・医薬品副作用被害救済制度の今後の利用意向(利用したい)は77%。

調査結果

Q1 過去1年間 医療機関にかかった経験

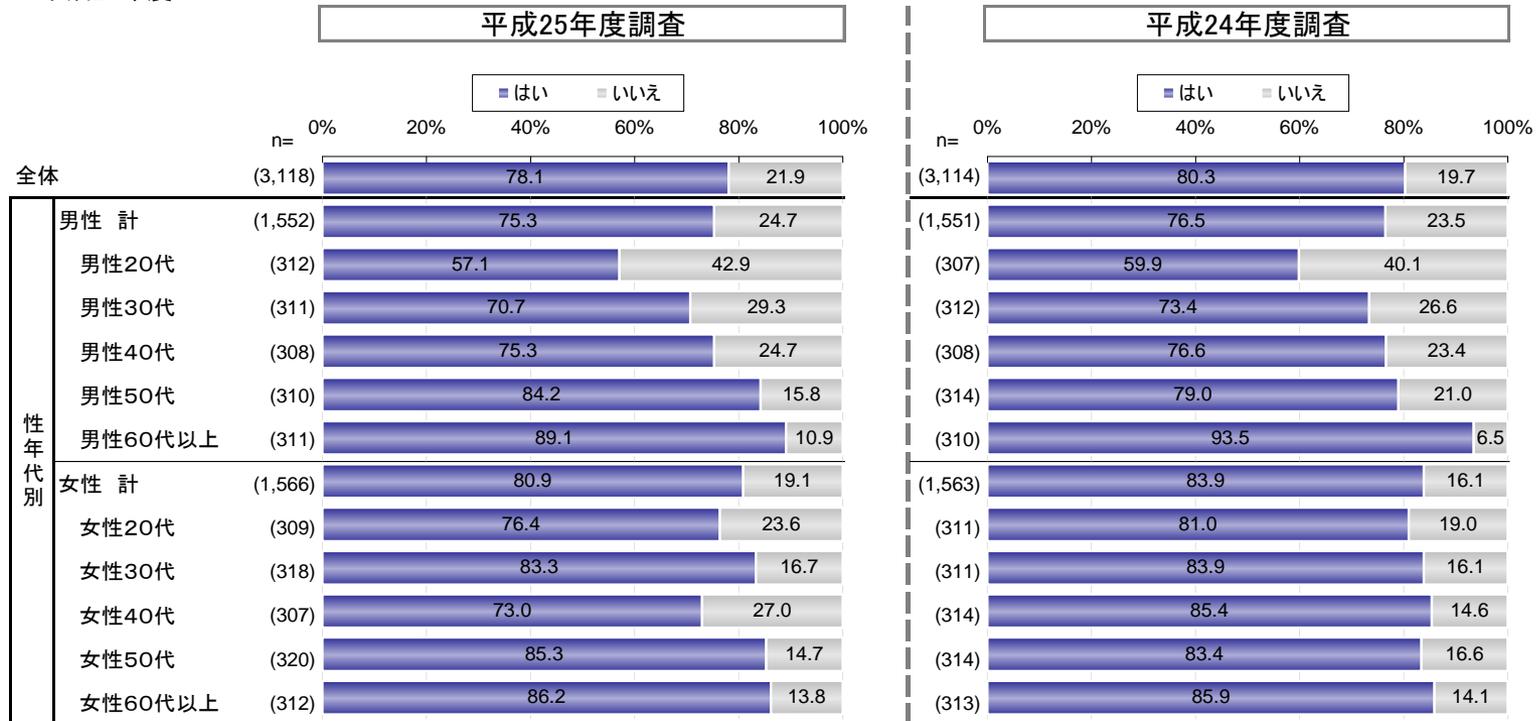
単一回答

H25* Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

H24* Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

H25* =平成25年度

H24* =平成24年度



・過去1年以内の医療機関利用率は78%。

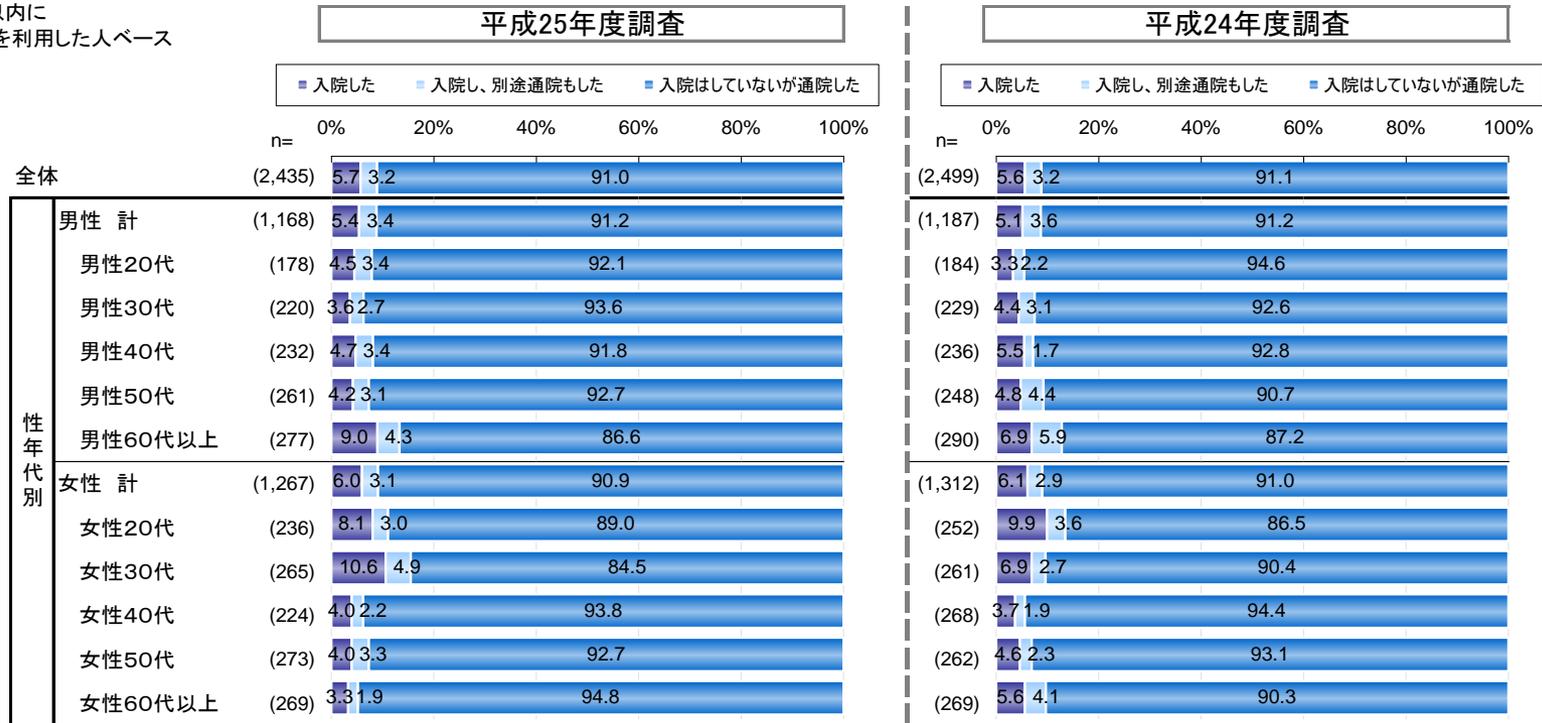
Q2 過去1年間 入院・通院経験

単一回答

H25 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

H24 Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

過去1年以内に
医療機関を利用した人ベース



・過去1年間の医療機関利用者の内訳として「入院はしていないが通院」が91%。「入院」は6%、「入院し、別途通院」が3%。

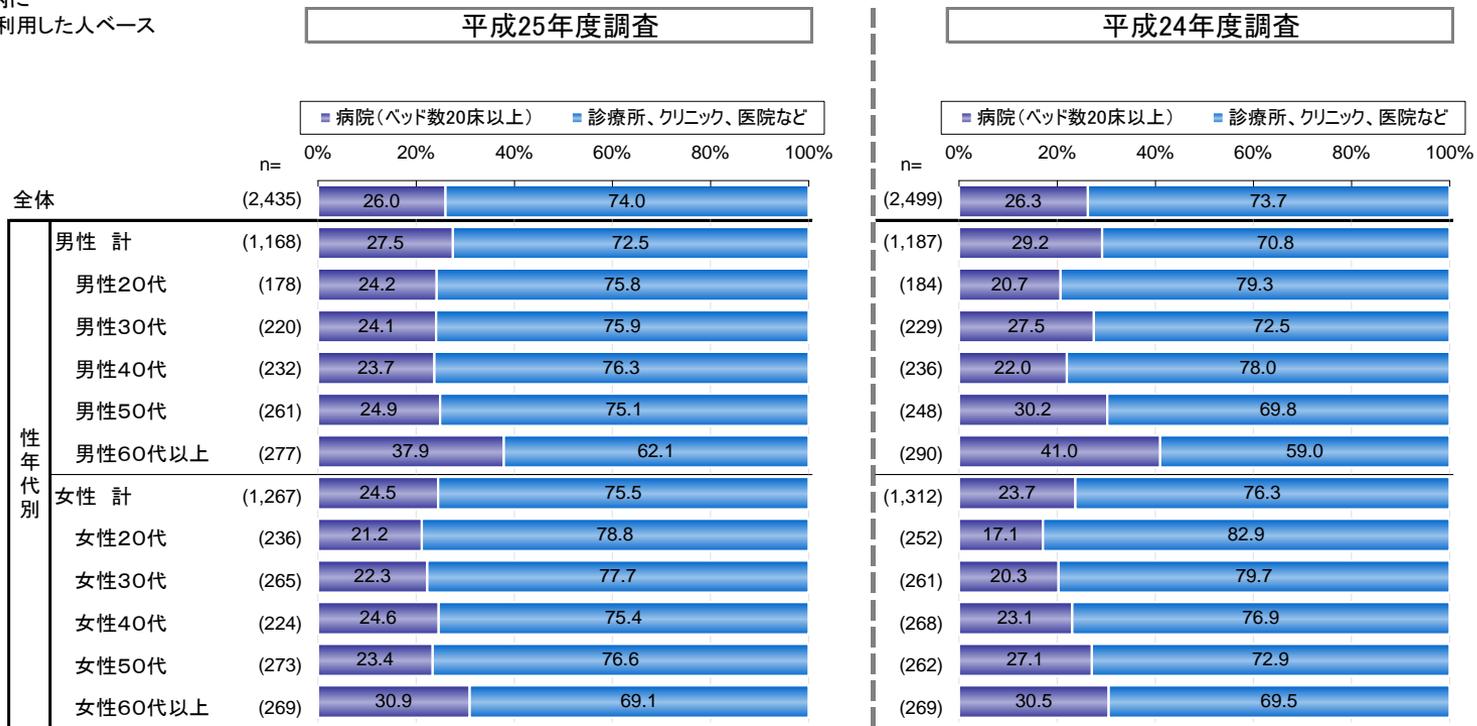
Q3 過去1年間 主に利用した医療機関の規模

単一回答

H25 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

H24 Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

過去1年以内に
医療機関を利用した人ベース



・利用した医療機関の規模は、「診療所、クリニック、医院など」が74%、「病院」が26%。

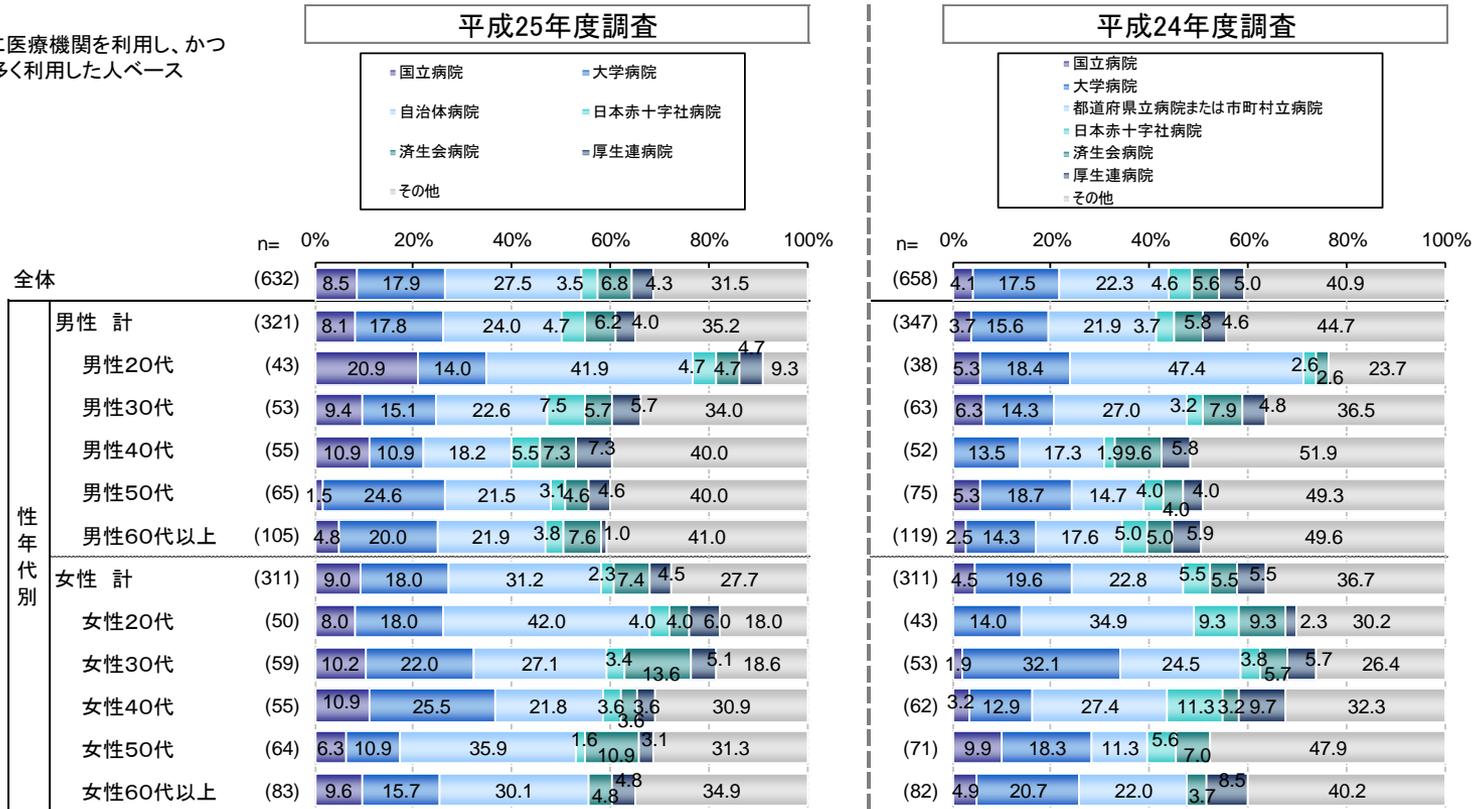
Q4 過去1年間 主に利用した病院種別

単一回答

H25 Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

H24 Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか。もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

過去1年以内に医療機関を利用し、かつ「病院」を最も多く利用した人ベース



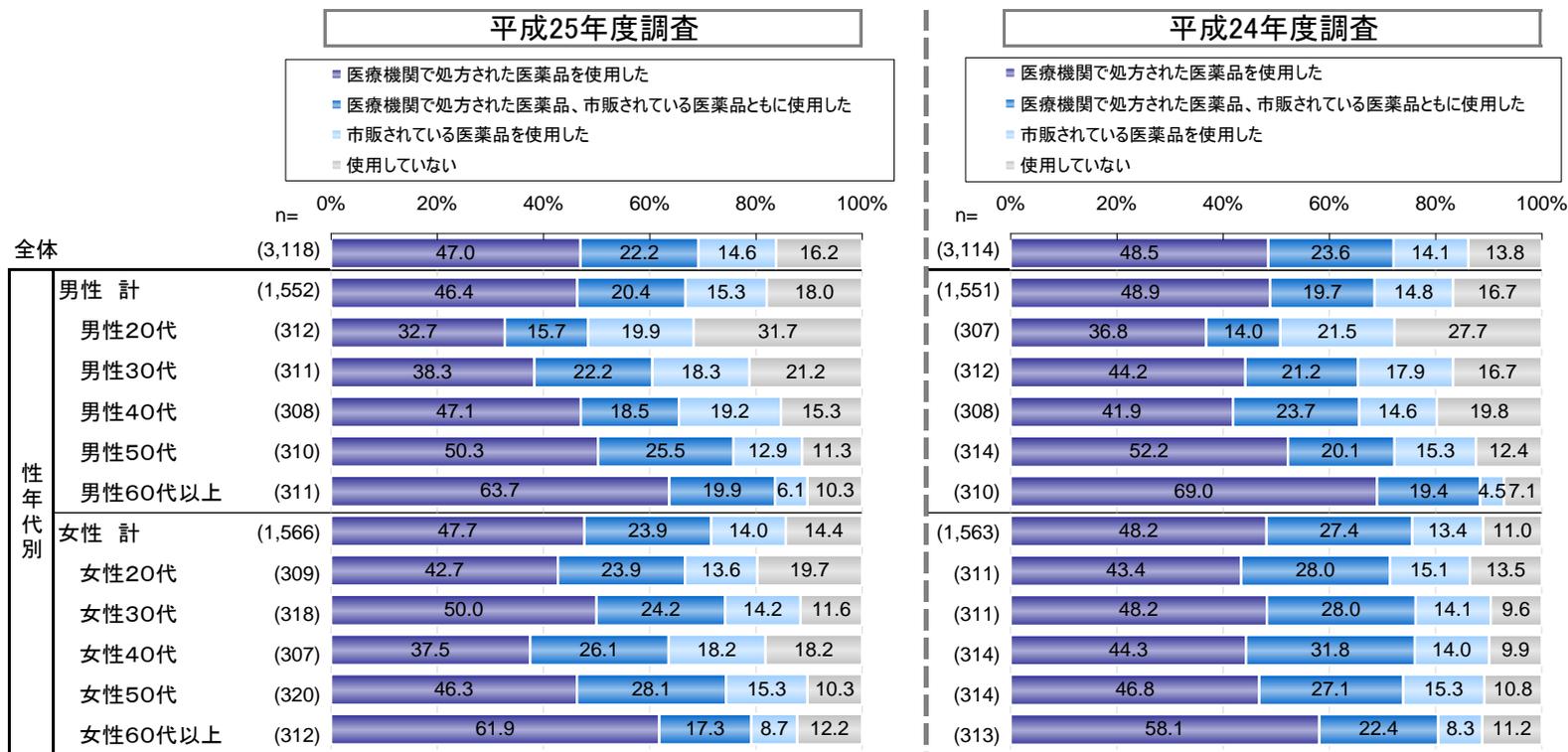
・利用した病院の内訳は「自治体病院」が28%で最も高く、次いで「大学病院」18%となっている。「その他」は32%。「国立病院」「自治体病院(24年度は「都道府県立病院または市町村立病院」)」の利用率がやや上昇。

Q5 過去1年間 医薬品使用経験

単一回答

H25 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

H24 Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。



・医薬品の使用経験は「医療機関で処方された医薬品」と「医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品」の合計が69%。

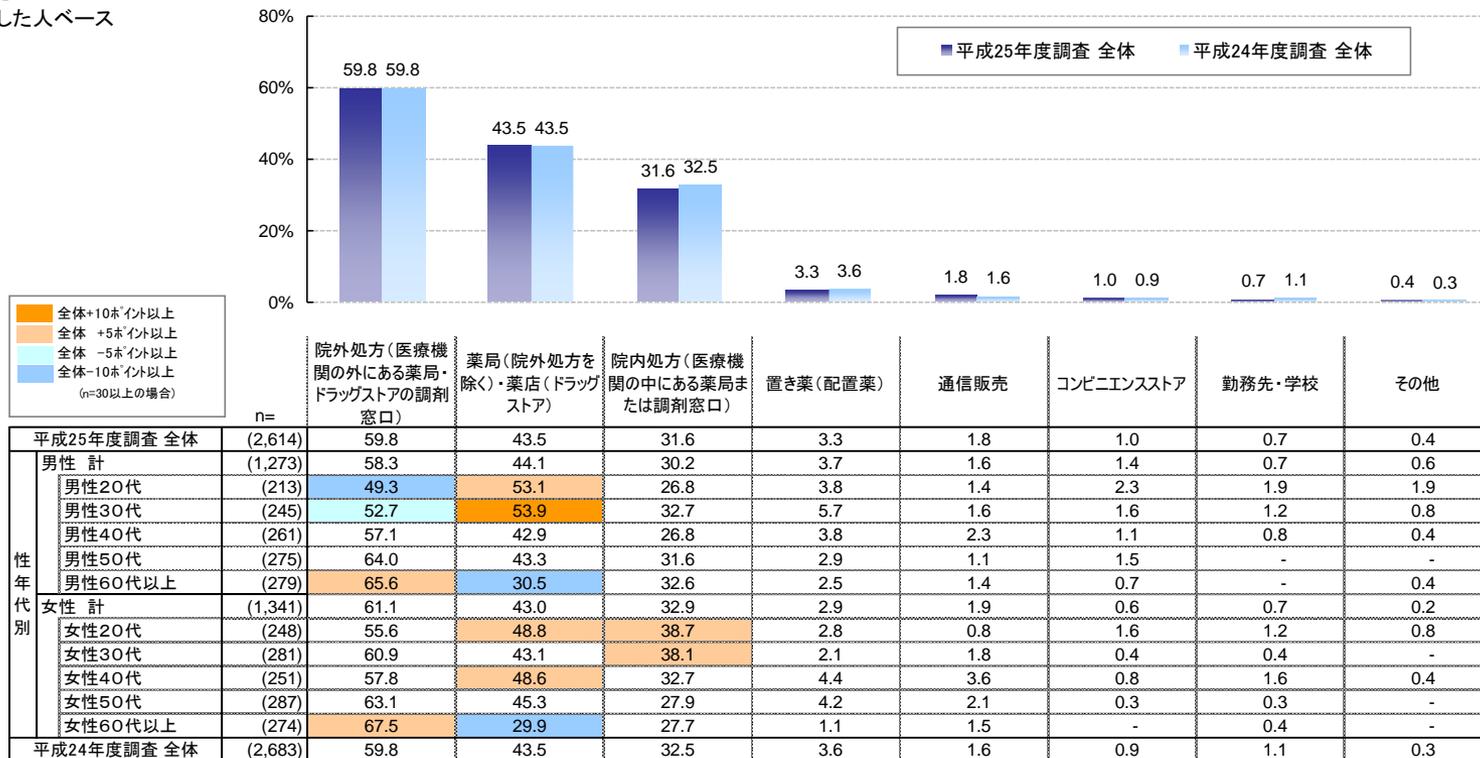
Q6 過去1年間 医薬品入手経路

複数回答

H25 Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

過去1年以内に
医薬品を使用した人ベース



平成25年度調査全体値の降順にソート

・医薬品の入手先トップは「院外処方」60%。以下「薬局(院外処方を除く)・薬店(ドラッグストア)」44%、「院内処方」32%が次ぐ。

Q7 医薬品副作用被害救済制度 認知率

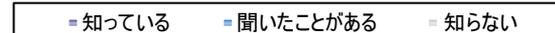
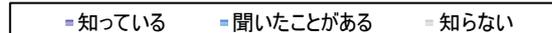
単一回答

H25 Q7 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う公的な「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

H24 Q7 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う公的な「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

平成25年度調査

平成24年度調査



		平成25年度調査					平成24年度調査										
		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知計	n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知計
性 年 代 別	全体	(3,118)	4.9	16.3				78.8	21.2	(3,114)	5.3	15.4				79.3	20.7
	男性 計	(1,552)	4.9	15.5				79.6	20.4	(1,551)	5.7	15.3				79.0	21.0
	男性20代	(312)	5.1	12.5				82.4	17.6	(307)	6.5	11.4				82.1	17.9
	男性30代	(311)	5.5	13.5				81.0	19.0	(312)	6.4	12.5				81.1	18.9
	男性40代	(308)	4.5	11.4				84.1	15.9	(308)	6.8	13.0				80.2	19.8
	男性50代	(310)	3.9	18.1				78.1	22.0	(314)	5.1	16.6				78.3	21.7
	男性60代以上	(311)	5.5	22.2				72.3	27.7	(310)	3.9	22.9				73.2	26.8
	女性 計	(1,566)	5.0	17.0				78.0	22.0	(1,563)	4.8	15.5				79.7	20.3
	女性20代	(309)	5.8	11.3				82.8	17.1	(311)	5.8	11.6				82.6	17.4
	女性30代	(318)	6.9	15.7				77.4	22.6	(311)	5.1	18.0				76.8	23.2
	女性40代	(307)	4.2	16.0				79.8	20.2	(314)	3.5	13.7				82.8	17.2
	女性50代	(320)	3.4	22.5				74.1	25.9	(314)	5.4	14.0				80.6	19.4
女性60代以上	(312)	4.5	19.2				76.3	23.7	(313)	4.2	20.4				75.4	24.6	
受 診 者 別	全体	(2,435)	5.7	18.1				76.2	23.8	(2,499)	5.9	16.6				77.5	22.5
	受診者	(2,435)	5.7	18.1				76.2	23.8	(2,499)	5.9	16.6				77.5	22.5
	非受診者	(683)	2.3	39.7				88.0	12.0	(615)	2.6	10.7				86.7	13.3

・医薬品副作用被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は21%。

【性・年代別】

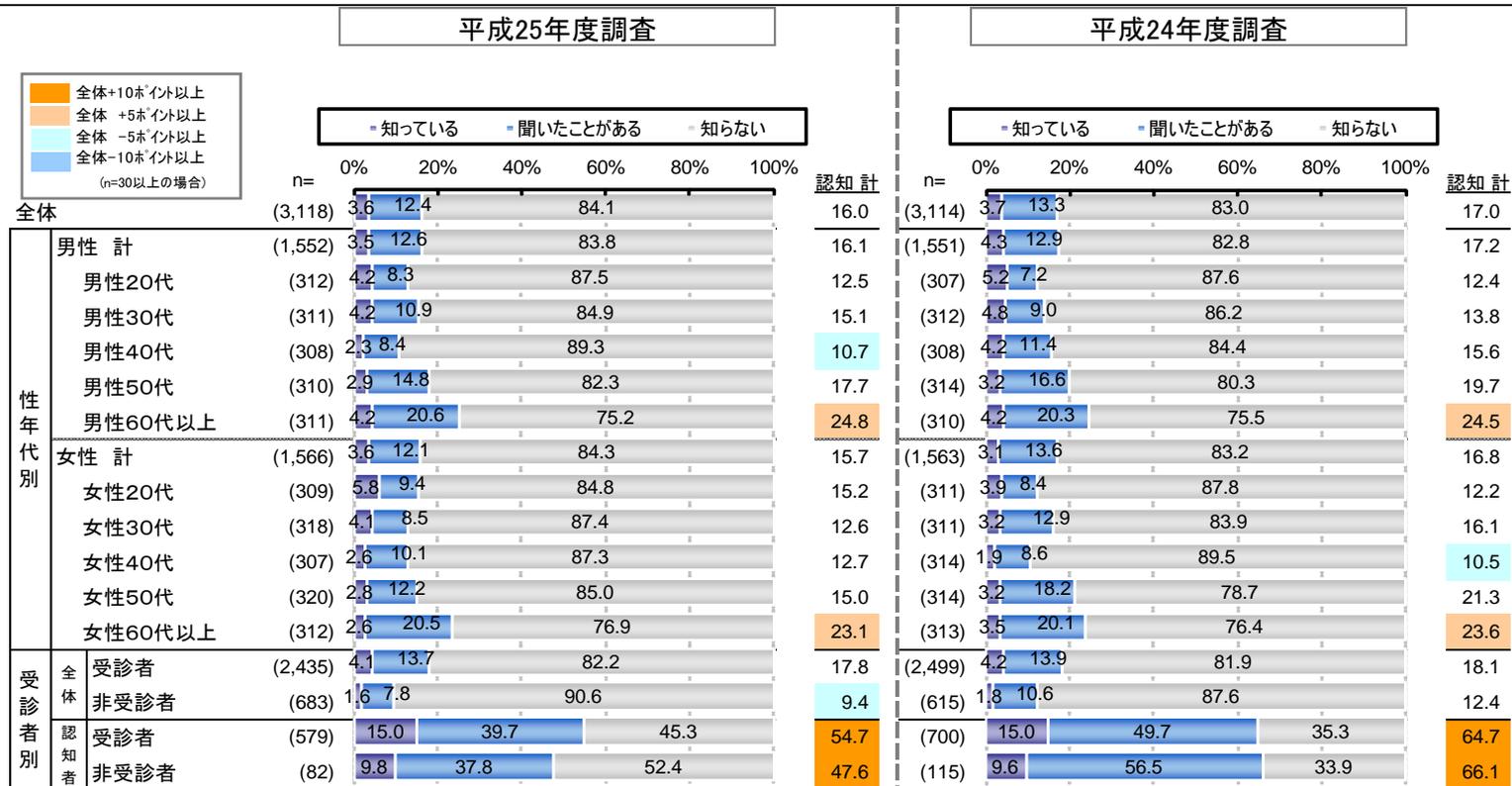
・男性、女性ともに高年齢層の認知度がやや高い傾向。受診者別では受診者が非受診者を上回っている。

Q8 生物由来製品感染等被害救済制度 認知率

単一回答

H25 Q8 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う公的な「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。

H24 Q8 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う公的な「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。



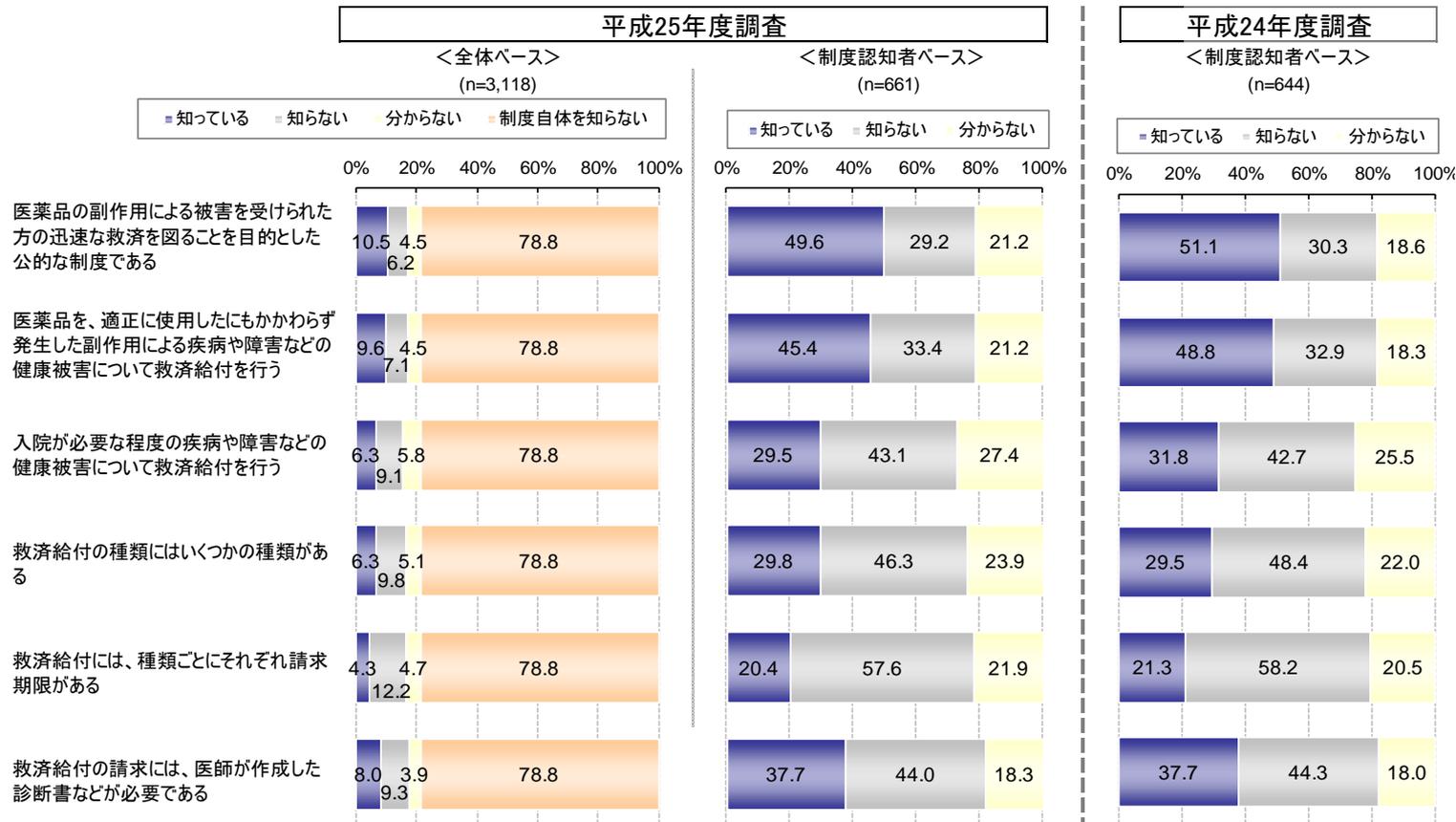
・生物由来製品感染等被害救済制度の認知率(知っている+聞いたことがある)は16%。
 【性・年代別】
 ・男性、女性ともに高年齢層の認知度がやや高い傾向。受診者別では受診者が非受診者を上回っている。

Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（全体）

単一回答

H25 Q9 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

H24 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。



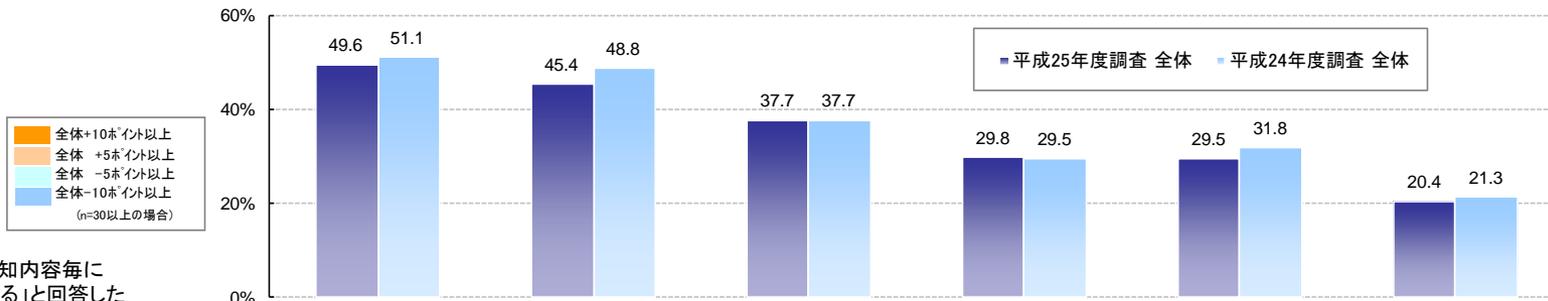
・ 制度認知者において、認知されている内容は「医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である」が50%と最も高く、「救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある」が20%と最も低い。昨年度と同様の傾向であった。

Q9 医薬品副作用被害救済制度 内容認知（性・年代別）

単一回答

H25 Q9 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

H24 Q8 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。



制度の認知内容毎に「知っている」と回答した方の割合を、制度認知者ベースで計算しグラフ化

		n=	医薬品の副作用による被害を受ける方を目的とした公的な制度である	医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	救済給付の請求には、医師が作成した診断書などが必要である	救済給付の種類にはいくつかの種類がある	入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う	救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある
平成25年度調査 全体		(661)	49.6	45.4	37.7	29.8	29.5	20.4
性年代別	男性 計	(317)	53.6	47.3	36.6	33.1	30.6	22.4
	男性20代	(55)	58.2	50.9	36.4	45.5	30.9	30.9
	男性30代	(59)	52.5	39.0	32.2	27.1	20.3	11.9
	男性40代	(49)	51.0	49.0	30.6	32.7	32.7	26.5
	男性50代	(68)	52.9	47.1	36.8	30.9	39.7	23.5
	男性60代以上	(86)	53.5	50.0	43.0	31.4	29.1	20.9
	女性 計	(344)	45.9	43.6	38.7	26.7	28.5	18.6
	女性20代	(53)	41.5	54.7	37.7	30.2	37.7	32.1
	女性30代	(72)	43.1	45.8	36.1	20.8	30.6	13.9
	女性40代	(62)	41.9	40.3	32.3	24.2	24.2	17.7
女性50代	(83)	50.6	43.4	45.8	31.3	26.5	20.5	
女性60代以上	(74)	50.0	36.5	39.2	27.0	25.7	12.2	
者受	受診者	(579)	50.4	46.5	38.2	30.9	30.1	21.1
別診	非受診者	(82)	43.9	37.8	34.1	22.0	25.6	15.9
平成24年度調査 全体		(644)	51.1	48.8	37.7	29.5	31.8	21.3

平成25年度調査全体値の降順にソート

【性・年代別】

- ・男性20代、女性20代で認知率が高い項目がやや目立つ。

【受診者別】

- ・受診者のほうが全体的に高め。

Q10 医薬品副作用被害救済制度 認知経路

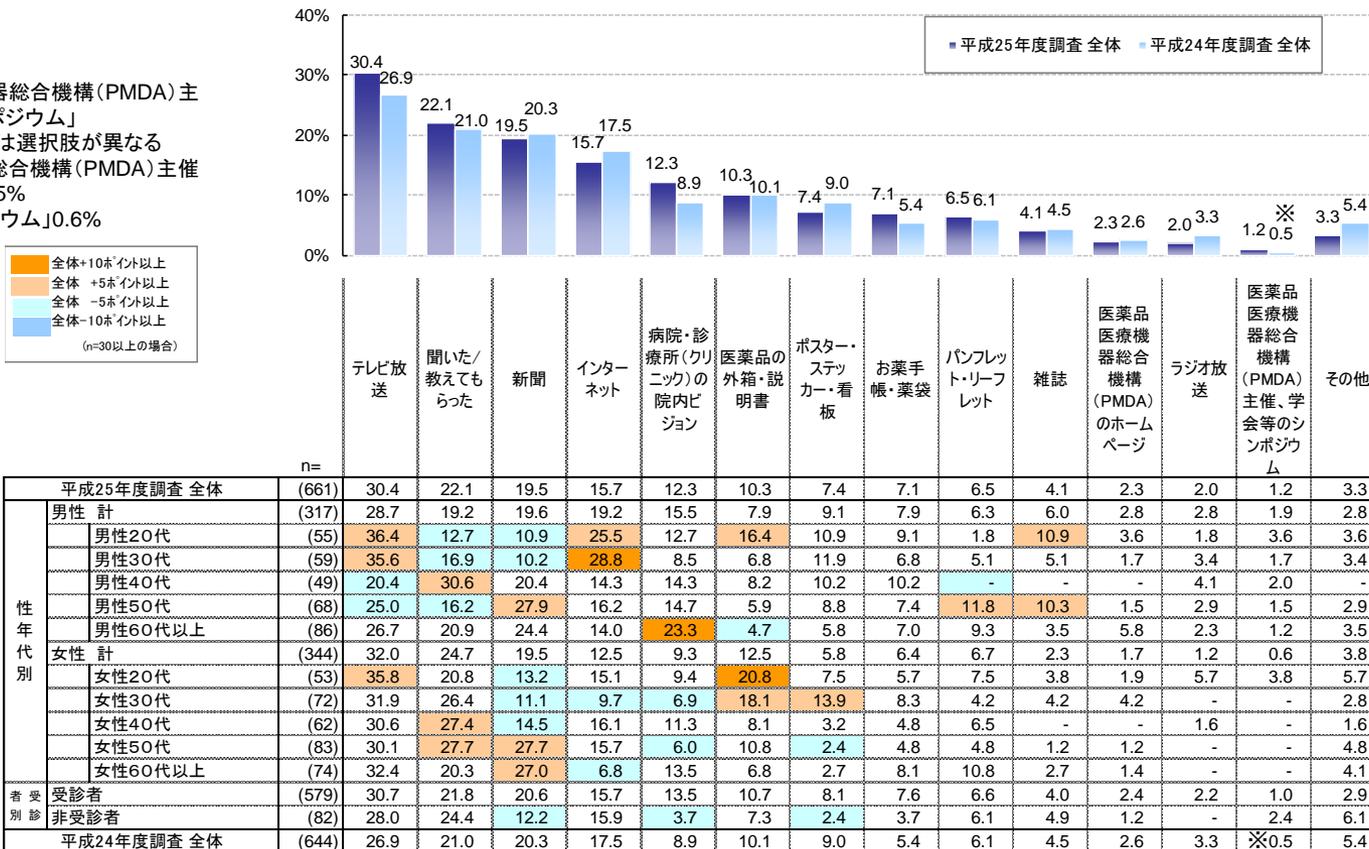
複数回答

H25 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

制度認知者ベース

※「医薬品医療機器総合機構(PMDA)主催、学会等のシンポジウム」平成24年度調査とは選択肢が異なる
 「医薬品医療機器総合機構(PMDA)主催のシンポジウム」0.5%
 「学会等のシンポジウム」0.6%



平成25年度調査全体値の降順にソート

- ・主な認知経路は「テレビ放送」30%、「聞いた/教えてもらった」22%、「新聞」20%、「インターネット」16%が続く。
- ・昨年度との比較では、「テレビ放送」と「院内ビジョン」がやや上昇している。

Q11 医薬品副作用被害救済制度 教えてもらった人

複数回答

H25 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

制度認知者の認知経路で「聞いた/教えてもらった」回答者ベース

※「自治体の職員/保健所の職員」平成24年度調査とは選択肢が異なる
 「自治体の職員」2.2%
 「保健所の職員」1.5%



全体+10ポイント以上
 全体 +5ポイント以上
 全体 -5ポイント以上
 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

		n=	知人・友人	家族	薬剤師	医師	看護師	自治体の職員/保健所の職員	医療機関の事務担当者	医薬品医療機器総合機構(PMDA)の相談窓口	医療ソーシャルワーカー	薬剤師会の相談窓口	弁護士	製薬会社の相談窓口	その他
平成25年度調査 全体		(146)	56.8	19.2	14.4	13.0	6.2	4.1	3.4	3.4	2.7	2.1	0.7	0.7	2.1
性年代別	男性 計	(61)	50.8	14.8	16.4	13.1	6.6	4.9	4.9	4.9	1.6	-	-	-	-
	男性20代	(7)	14.3	-	14.3	42.9	14.3	14.3	-	14.3	-	-	-	-	-
	男性30代	(10)	50.0	30.0	20.0	20.0	20.0	10.0	-	-	-	-	-	-	-
	男性40代	(15)	66.7	6.7	-	13.3	-	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-
	男性50代	(11)	36.4	9.1	45.5	-	-	-	-	18.2	9.1	-	-	-	-
	男性60代以上	(18)	61.1	22.2	11.1	5.6	5.6	-	11.1	-	-	-	-	-	-
	女性 計	(85)	61.2	22.4	12.9	12.9	5.9	3.5	2.4	2.4	3.5	3.5	1.2	1.2	3.5
	女性20代	(11)	27.3	45.5	27.3	45.5	27.3	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	9.1	-
	女性30代	(19)	63.2	10.5	21.1	15.8	5.3	5.3	-	-	10.5	-	-	-	5.3
	女性40代	(17)	76.5	11.8	-	5.9	-	5.9	-	5.9	-	5.9	-	-	5.9
女性50代	(23)	60.9	26.1	8.7	4.3	4.3	-	4.3	-	-	4.3	-	-	4.3	
女性60代以上	(15)	66.7	26.7	13.3	6.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
平成24年度調査 全体		(135)	49.6	20.0	11.9	16.3	5.9	※2.2	1.5	1.5	0.7	0.7	-	1.5	7.4

平成25年度調査全体値の降順にゾート

- ・「知人・友人」「家族」に続き、「薬剤師」「医師」「看護師」の医療従事者から教えてもらった人が多い。
- ・昨年度より「知人・友人」が上昇。「薬剤師」も若干上昇している。

Q12 医薬品副作用被害救済制度 パンフレット・ポスター接触場所

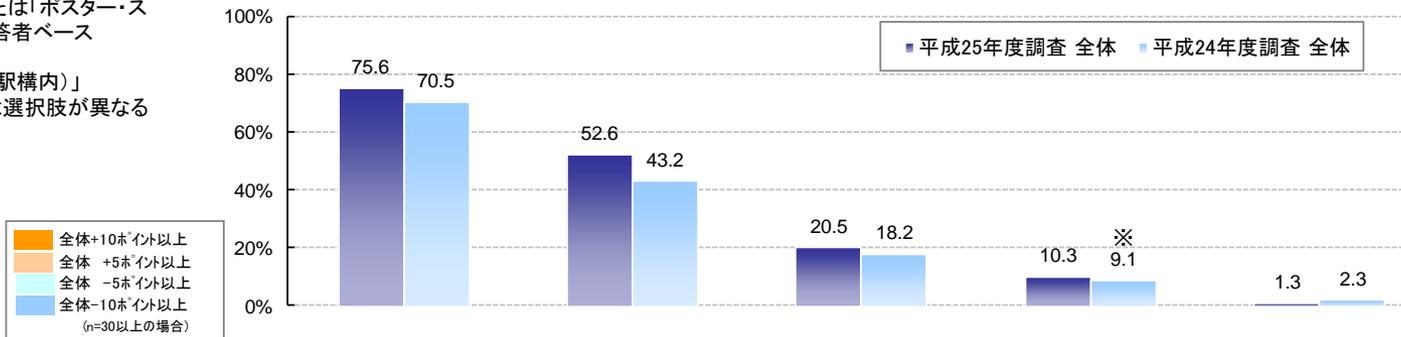
複数回答

H25 Q12 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q12 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のパンフレット、ポスター・ステッカー・看板をどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

制度認知者の認知経路で「パンフレット・リーフレット」または「ポスター・ステッカー・看板」回答者ベース

※「交通広告(電車・駅構内)」平成24年度調査とは選択肢が異なる「電車」9.1%「駅構内」1.1%



		n=	病院・診療所(クリニック)	薬局・薬店(ドラッグストア)	自治体・保健所などの公共機関	交通広告(電車・駅構内)	その他
平成25年度調査 全体		(78)	75.6	52.6	20.5	10.3	1.3
性年代別	男性 計	(44)	75.0	56.8	27.3	11.4	2.3
	男性20代	(7)	57.1	57.1	14.3	28.6	-
	男性30代	(8)	75.0	37.5	37.5	-	-
	男性40代	(5)	60.0	60.0	40.0	20.0	-
	男性50代	(13)	84.6	53.8	15.4	7.7	7.7
	男性60代以上	(11)	81.8	72.7	36.4	9.1	-
	女性 計	(34)	76.5	47.1	11.8	8.8	-
	女性20代	(6)	66.7	50.0	16.7	16.7	-
	女性30代	(11)	90.9	54.5	-	18.2	-
	女性40代	(4)	75.0	-	25.0	-	-
女性50代	(5)	80.0	40.0	-	-	-	
女性60代以上	(8)	62.5	62.5	25.0	-	-	
平成24年度調査 全体		(88)	70.5	43.2	18.2	※ 9.1	2.3

平成25年度調査全体値の降順にソート

・主な接触場所は「病院・診療所(クリニック)」76%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」53%、「自治体・保健所などの公共機関」21%、「交通広告」10%となっている。

Q13 広告の認知率

単一回答

H25 Q13 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になってからお答えください。あなたは、これまでにこれらの画像をひとつでも見たことがありましたか。

H24 Q13 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になってからお答えください。あなたは、これまでにこれらの画像をひとつでも見たことがありましたか。

ポスター



パンナー



新聞広告



平成25年度調査



■ 見たことがある ■ 見たような気がする ■ 見たことはない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知 計
全体		(3,118)2.0		9.3				88.7	11.3
性別別	男性 計	(1,552)2.6		11.1				86.3	13.7
	男性20代	(312) 4.8		8.3				86.9	13.1
	男性30代	(311) 1.6		12.2				86.2	13.8
	男性40代	(308) 0.6		11.4				88.0	12.0
	男性50代	(310) 2.6		9.7				87.7	12.3
	男性60代以上	(311) 3.2		13.8				83.0	17.0
	女性 計	(1,566)1.5		7.5				91.1	9.0
	女性20代	(309) 2.3		5.5				92.2	7.8
	女性30代	(318) 2.2		6.0				91.8	8.2
	女性40代	(307) 1.0		4.9				94.1	5.9
女性50代	(320) 0.6		7.8				91.6	8.4	
女性60代以上	(312) 1.3		13.1				85.6	14.4	
受診者別	全体	(2,435)2.3		10.6				87.1	12.9
	受診者	(683) 0.9		4.7				94.4	5.6
	受診者	(579)	9.2	30.6				60.3	39.8
	非受診者	(82)	7.3	25.6				67.1	32.9

平成24年度調査

■ 見たことがある ■ 見たような気がする ■ 見たことはない

		n=	0%	20%	40%	60%	80%	100%	認知 計
全体		(3,114)1.8		8.3				89.9	10.1
性別別	男性 計	(1,551)2.5		9.9				87.6	12.4
	男性20代	(307) 2.3		7.5				90.2	9.8
	男性30代	(312) 2.2		9.9				87.8	12.2
	男性40代	(308) 1.6		7.1				91.2	8.8
	男性50代	(314) 2.9		9.6				87.6	12.4
	男性60代以上	(310) 3.2		15.5				81.3	18.7
	女性 計	(1,563)1.1		6.7				92.3	7.7
	女性20代	(311) 0.6		3.9				95.5	4.5
	女性30代	(311) 1.0		7.7				91.3	8.7
	女性40代	(314) 0.6		4.1				95.2	4.8
女性50代	(314) 1.6		7.0				91.4	8.6	
女性60代以上	(313) 1.6		10.5				87.9	12.1	
受診者別	全体	(2,499)2.1		9.1				88.8	11.2
	受診者	(615) 0.5		4.9				94.6	5.4
	受診者	(700)	7.0	26.3				66.7	33.3
	非受診者	(115)	2.6	15.7				81.7	18.3

・広告の認知率(見たことがある+見たような気がする)は11%で、昨年度とほぼ同水準。

【受診者別】

・全体ベースでは、受診者が13%で、非受診者の6%を上回る。

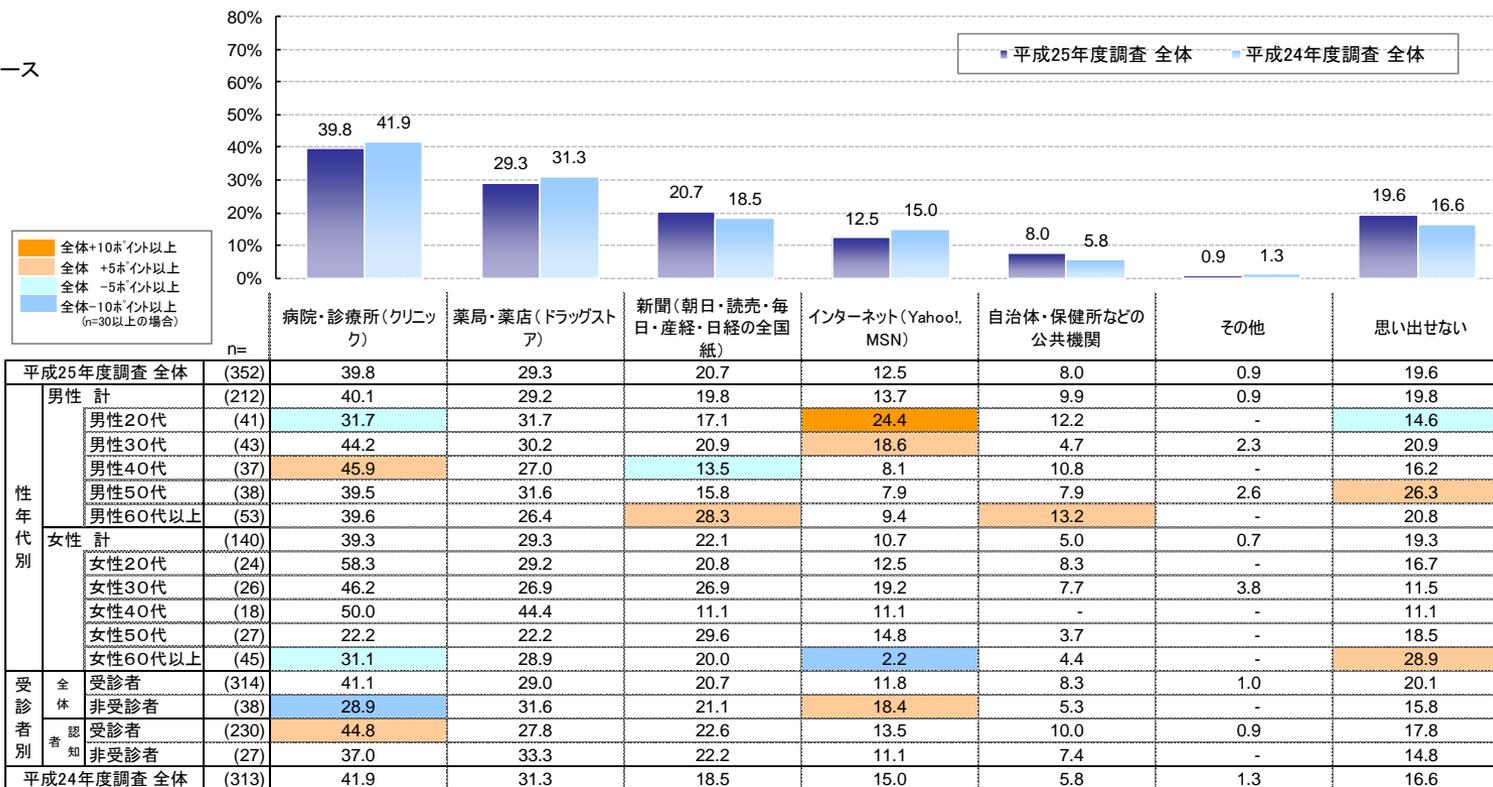
Q14 広告の接触媒体

複数回答

H25 Q14 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q14 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

広告認知者ベース



平成25年度調査全体値の降順にソート

・広告接触は、「病院・診療所(クリニック)」40%、「薬局・薬店(ドラッグストア)」29%、「新聞(朝日・読売・毎日・産経・日経の全国紙)」21%の順で、昨年度と同傾向。

【性・年代別/受診者別】

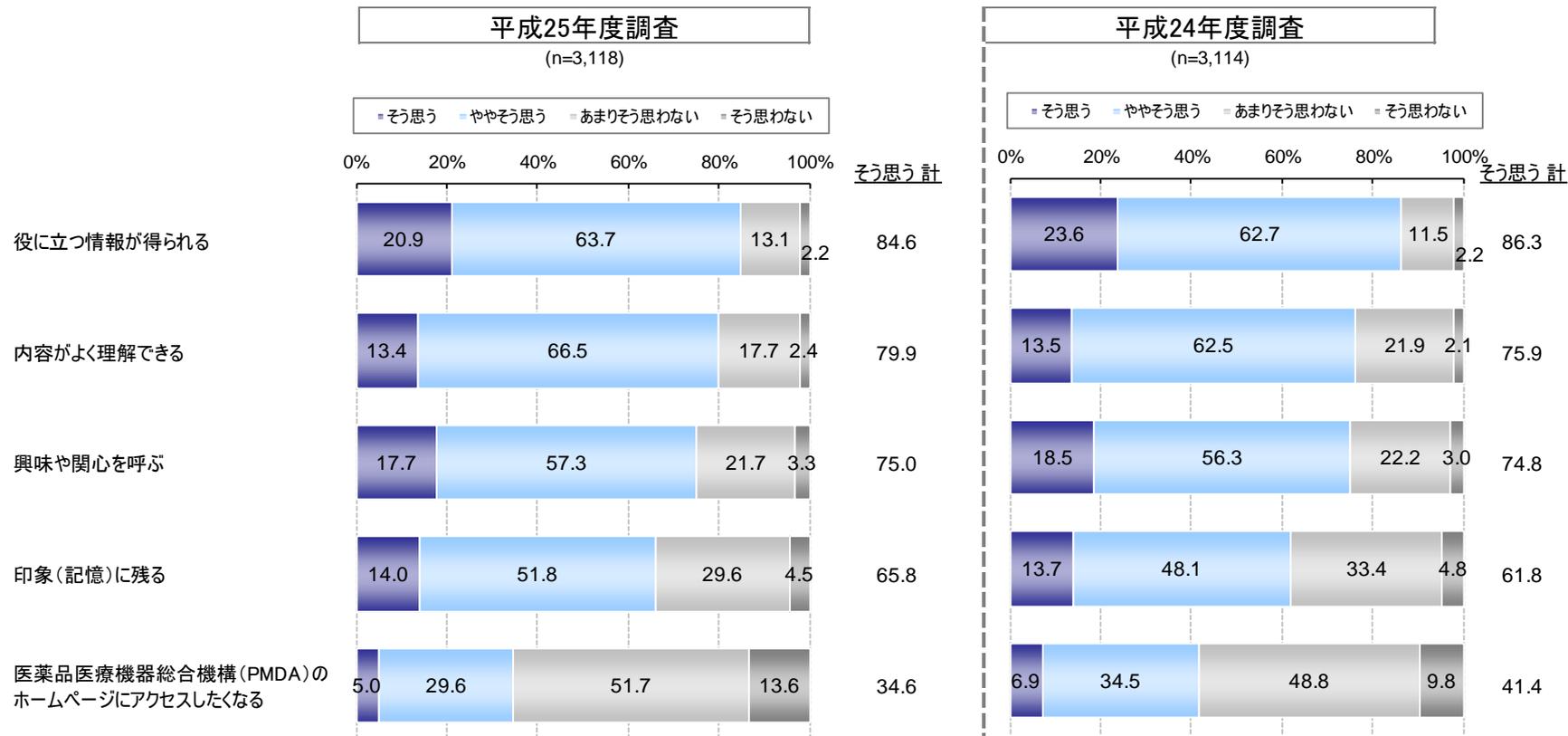
- ・「病院・診療所」では男性40代が高い。
- ・「新聞」では男性60代、「インターネット」では男性20代・30代が高い。

Q15 広告の評価（全体）

単一回答

H25 Q15 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H24 Q15 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



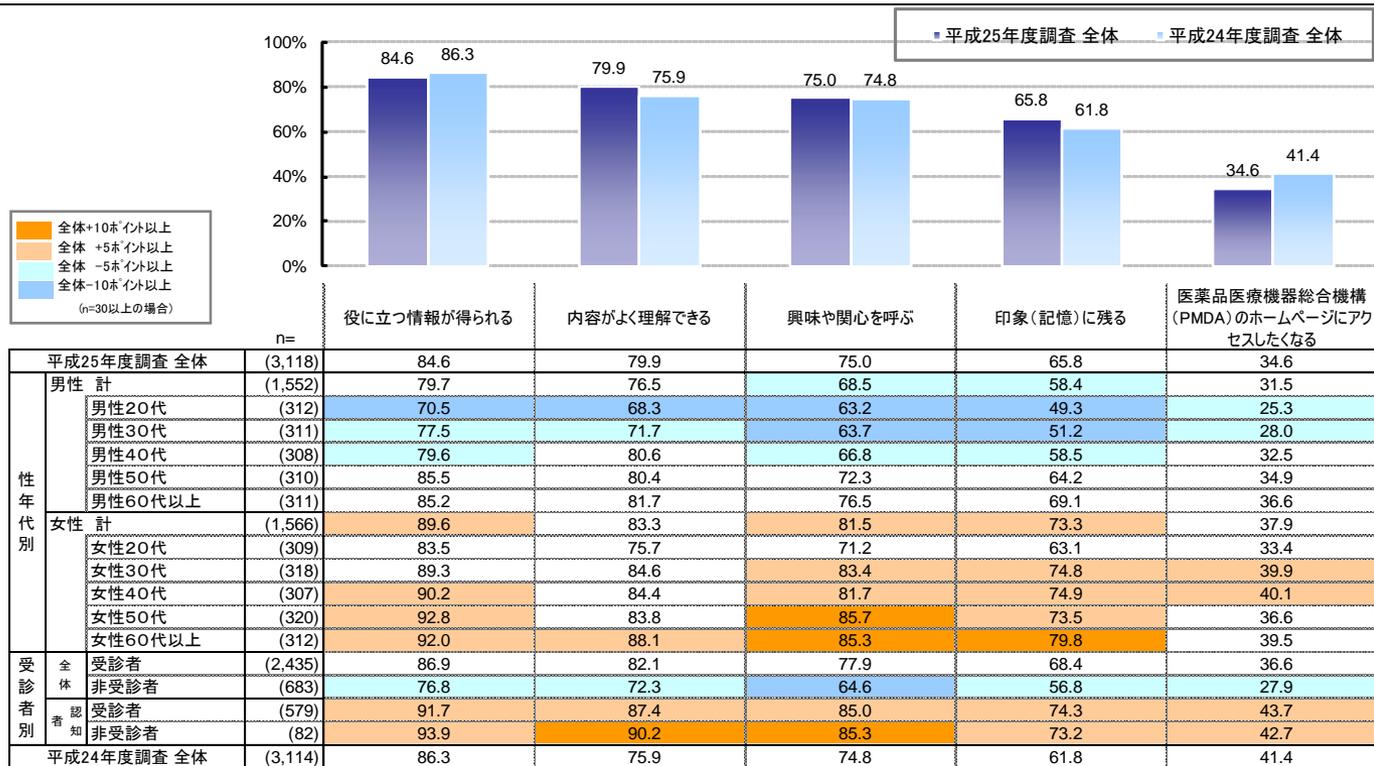
・広告の評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は「役に立つ情報が得られる」85%。以下、「内容がよく理解できる」80%、「興味や関心を呼ぶ」75%が続く。昨年度と同傾向。

Q15 広告の評価（性・年代別）

単一回答

H25 Q15 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H24 Q15 画像(新聞広告、ポスター、インターネット)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



【性・年代別】

・昨年同様、男性よりも女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い傾向にある。

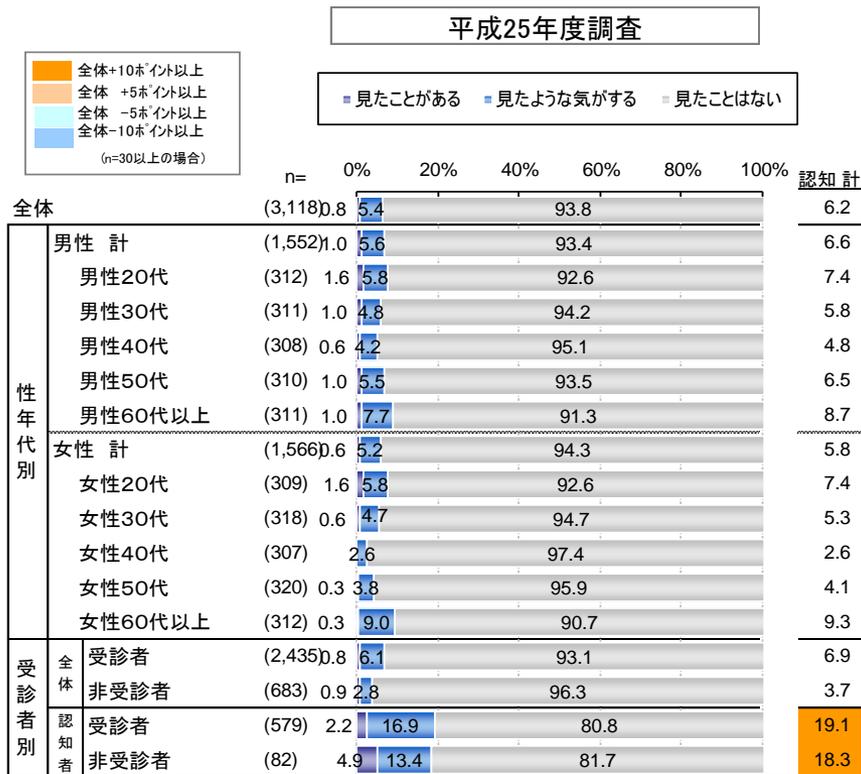
【受診者別】

・全体ベースでは非受診者の評価は比較的低い傾向にあるが、制度の認知者ベースでは、非受診者の評価は比較的高い。

Q16 テレビCMの認知率

単一回答

H25 Q16 あなたは、テレビでこのCMを見たことがありますか



・テレビCMの認知率(見たことがある+見たような気がする)は6%。

【受診者別】

- ・全体ベースでは受診者が7%、非受診者が4%。
- ・制度の認知者ベースでは、受診者19%、非受診者18%と同水準。

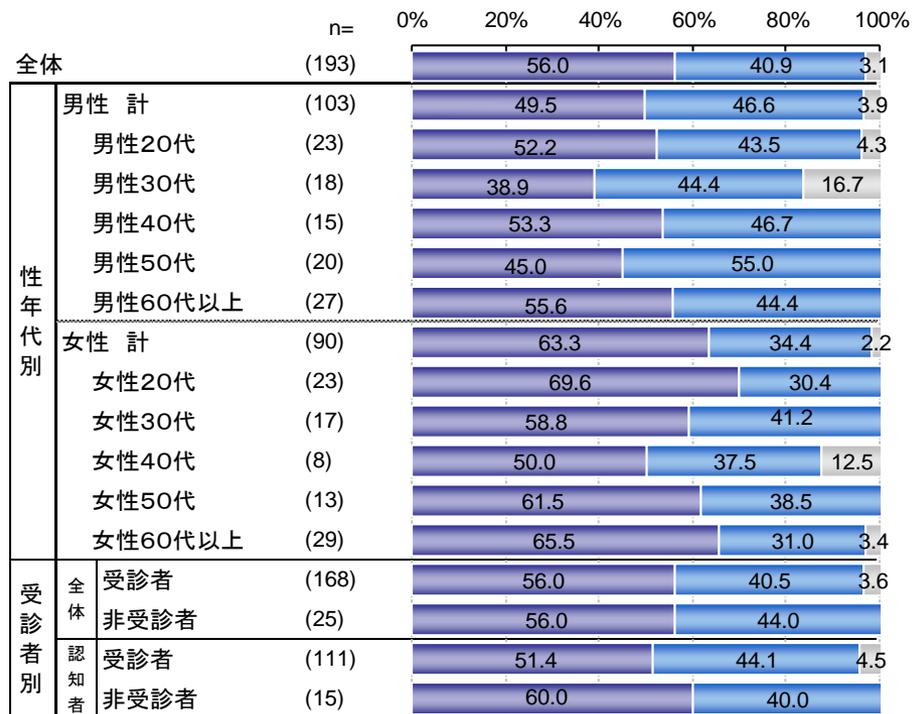
Q17 テレビCMの視聴回数

単一回答

H25 Q17 あなたは、このCMを何回ご覧になりましたか。

平成25年度調査

■ 1回 ■ 2回以上5回未満 ■ 5回以上



・「1回」が56%、「2回以上5回未満」が41%。

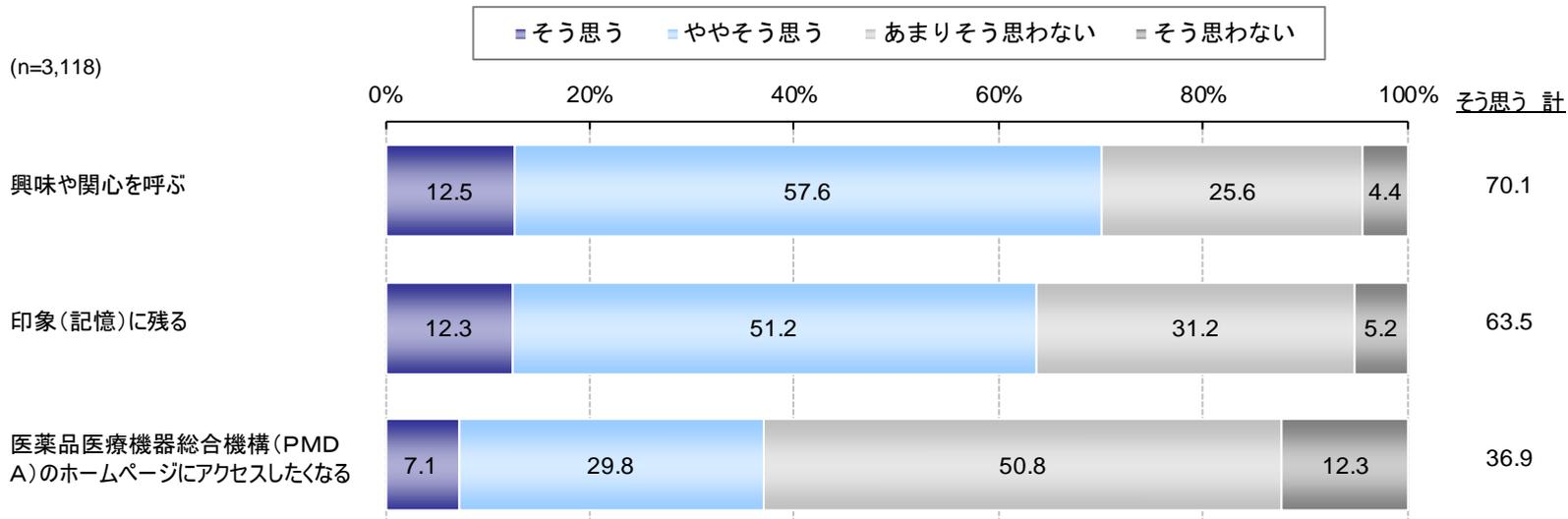
Q18 テレビCMの評価(全体)

単一回答

H25 Q18 画像(CM)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

平成25年度調査

(n=3,118)



・テレビCMの評価(そう思う+ややそう思う)が高かった項目は、「興味や関心を呼ぶ」70%。「印象(記憶)に残る」64%と続く。

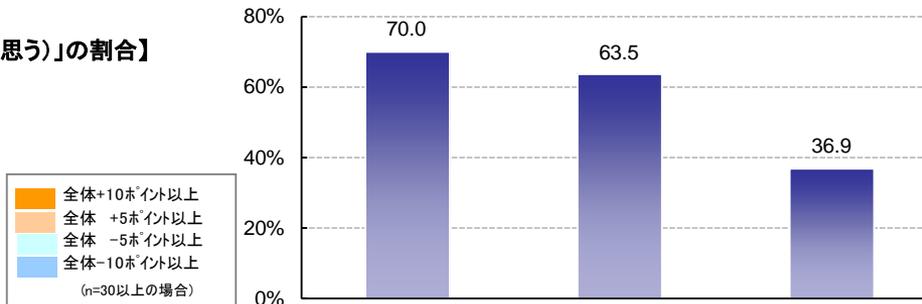
Q18 テレビCMの評価(性・年代別)

単一回答

H25 Q18 画像(CM)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

平成25年度調査

【そう思う 計(そう思う+ややそう思う)】の割合



		n=	興味や関心を呼ぶ	印象(記憶)に残る	医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページにアクセスしたくなる
平成25年度調査 全体		(3,118)	70.0	63.5	36.9
性年代別	男性 計	(1,552)	61.4	54.5	32.6
	男性20代	(312)	54.2	50.0	27.9
	男性30代	(311)	56.3	47.6	27.3
	男性40代	(308)	60.7	52.3	33.1
	男性50代	(310)	65.2	59.7	36.1
	男性60代以上	(311)	70.7	63.0	38.6
	女性 計	(1,566)	78.6	72.5	41.3
	女性20代	(309)	68.6	60.8	34.6
	女性30代	(318)	78.3	75.5	42.5
	女性40代	(307)	79.5	73.0	43.0
女性50代	(320)	81.6	74.7	41.6	
女性60代以上	(312)	84.9	78.2	44.6	

【性・年代別】

・男性よりも女性、低年齢層よりも高年齢層で評価が高い傾向。

Q19 キャラクターの評価（全体）

単一回答

H25 Q19 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

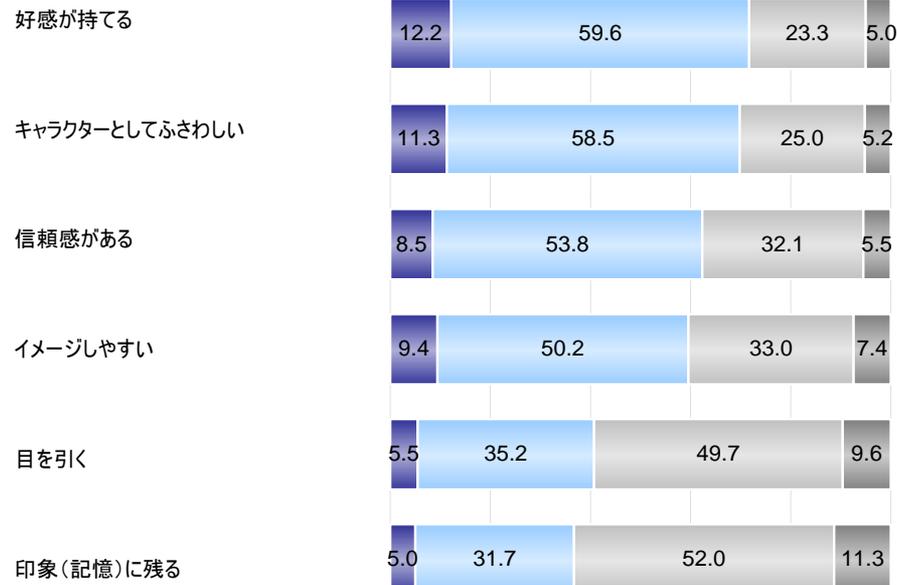
H24 Q18 キャラクター(ドクトルQ)をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



平成25年度調査
(n=3,118)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

0% 20% 40% 60% 80% 100% そう思う計



平成24年度調査
(n=3,114)

■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない

0% 20% 40% 60% 80% 100% そう思う計



・キャラクターの評価(そう思う+ややそう思う)で最も高い項目は「好感が持てる」72%。以下、「キャラクターとしてふさわしい」70%、「信頼感がある」62%が続く。

Q19 キャラクターの評価（性・年代別）

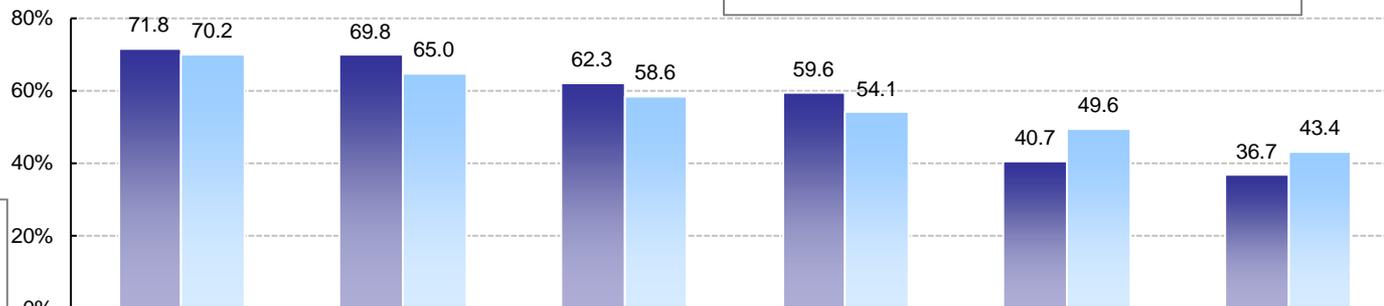
単一回答

H25 Q19 キャラクター（ドクトルQ）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

H24 Q18 キャラクター（ドクトルQ）をご覧になった感想をお聞きます。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。



【そう思う計（そう思う+ややそう思う）】の割合



■ 全体+10ポイント以上
■ 全体 +5ポイント以上
■ 全体 -5ポイント以上
■ 全体-10ポイント以上
 (n=30以上の場合)

		n=	好感が持てる	キャラクターとしてふさわしい	信頼感がある	イメージしやすい	目を引く	印象（記憶）に残る
平成25年度調査 全体		(3,118)	71.8	69.8	62.3	59.6	40.7	36.7
性年代別	男性 計	(1,552)	63.6	60.2	52.6	48.7	33.8	31.0
	男性20代	(312)	59.0	64.1	50.6	44.3	30.1	24.0
	男性30代	(311)	59.5	55.6	49.6	40.9	24.8	22.5
	男性40代	(308)	61.0	57.2	52.3	47.4	27.9	25.0
	男性50代	(310)	62.9	56.8	50.6	48.7	30.7	32.0
	男性60代以上	(311)	75.5	67.6	59.8	62.3	55.3	51.8
	女性 計	(1,566)	79.9	79.2	72.0	70.3	47.6	42.3
	女性20代	(309)	66.9	77.0	66.7	63.4	32.7	27.5
	女性30代	(318)	80.2	79.6	69.2	70.1	43.4	38.1
	女性40代	(307)	85.0	81.7	74.6	70.4	46.9	41.4
女性50代	(320)	83.8	78.4	71.3	70.6	49.1	43.1	
女性60代以上	(312)	83.3	79.2	78.2	77.2	66.1	61.5	
平成24年度調査 全体		(3,114)	70.2	65.0	58.6	54.1	49.6	43.4

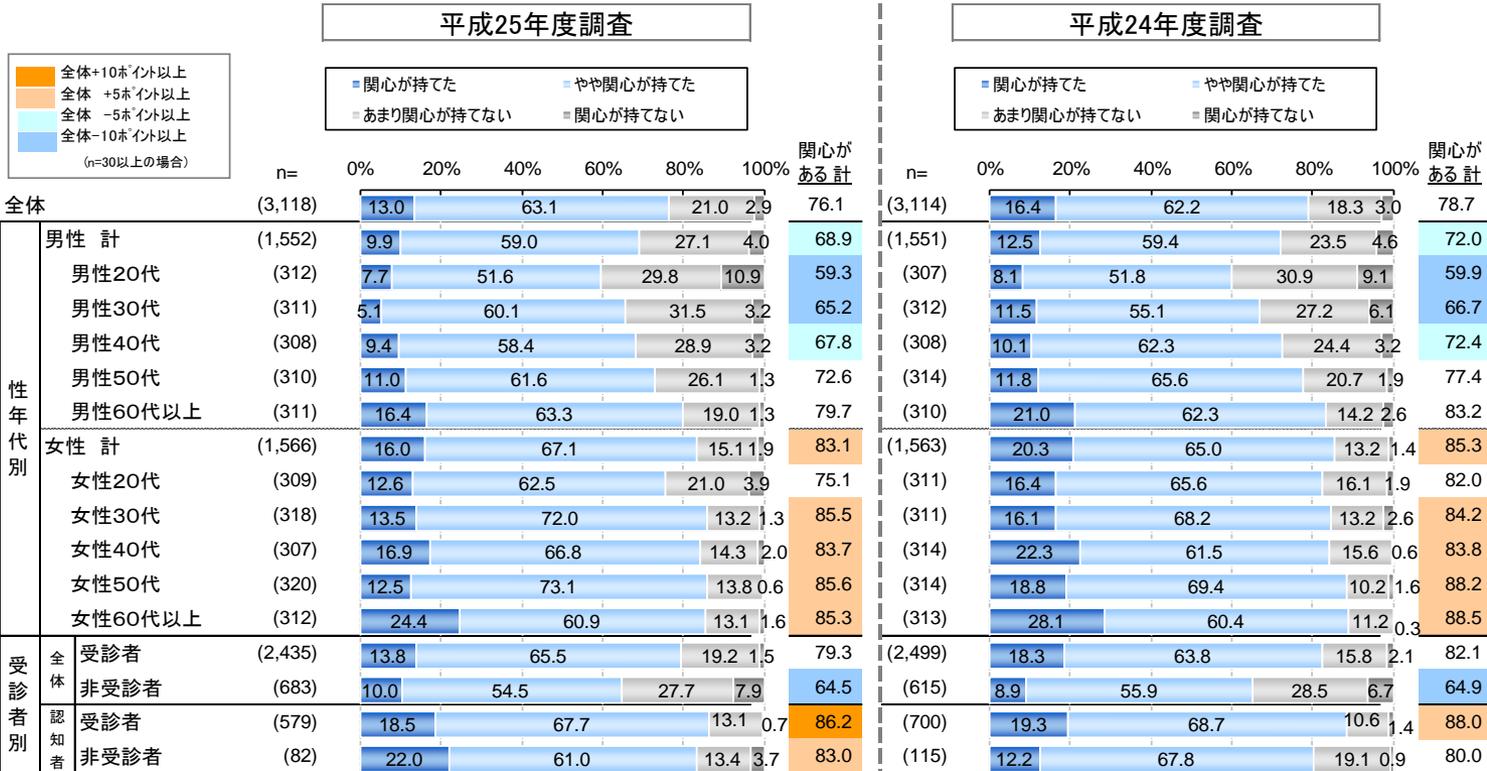
・キャラクターも、広告、テレビCMと同様に男性よりも女性の評価が高い。また低年齢層よりも高年齢層の評価が高い

Q20 医薬品副作用被害救済制度 関心度

単一回答

H25 Q20 画像(パンフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。

H24 Q19 画像(パンフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。



・医薬品副作用被害救済制度についての関心度(関心を持ってた+やや関心を持ってた)は昨年とほぼ同水準。
 【性・年代別】
 ・「女性」の関心が高く、20代を除くいずれの年代でも80%以上。
 【受診者別】
 ・全体ベースの関心度(関心を持ってた+やや関心を持ってた)は「受診者」が79%、「非受診者」が65%。

Q21 制度周知方法 <自由記述>

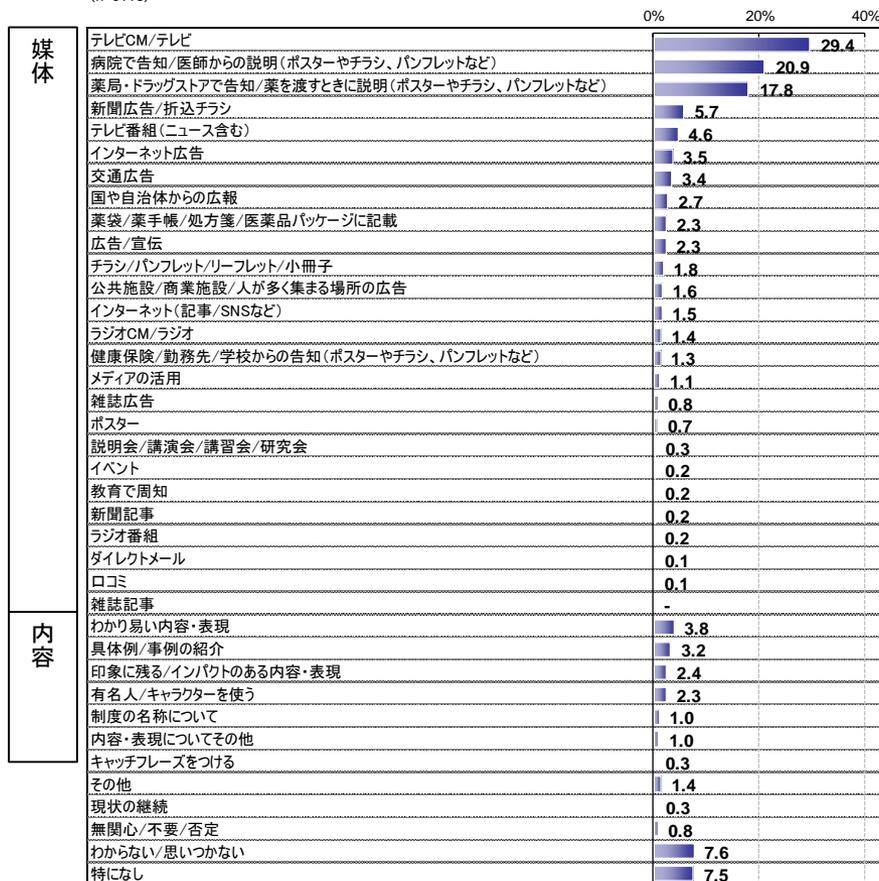
自由回答

H25 Q21 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。

H24 Q20 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。

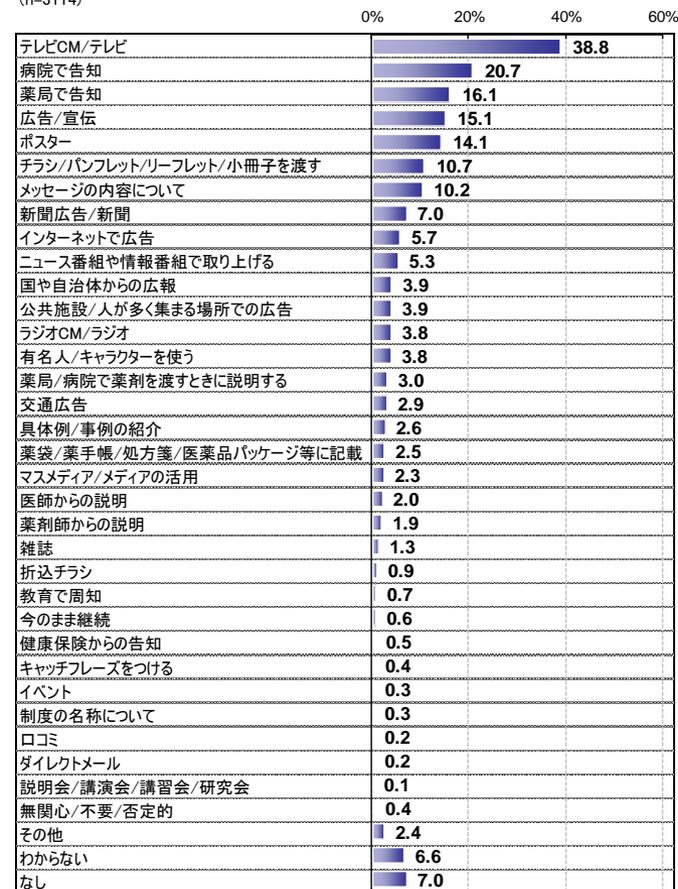
平成25年度調査

(n=3118)



平成24年度調査

(n=3114)



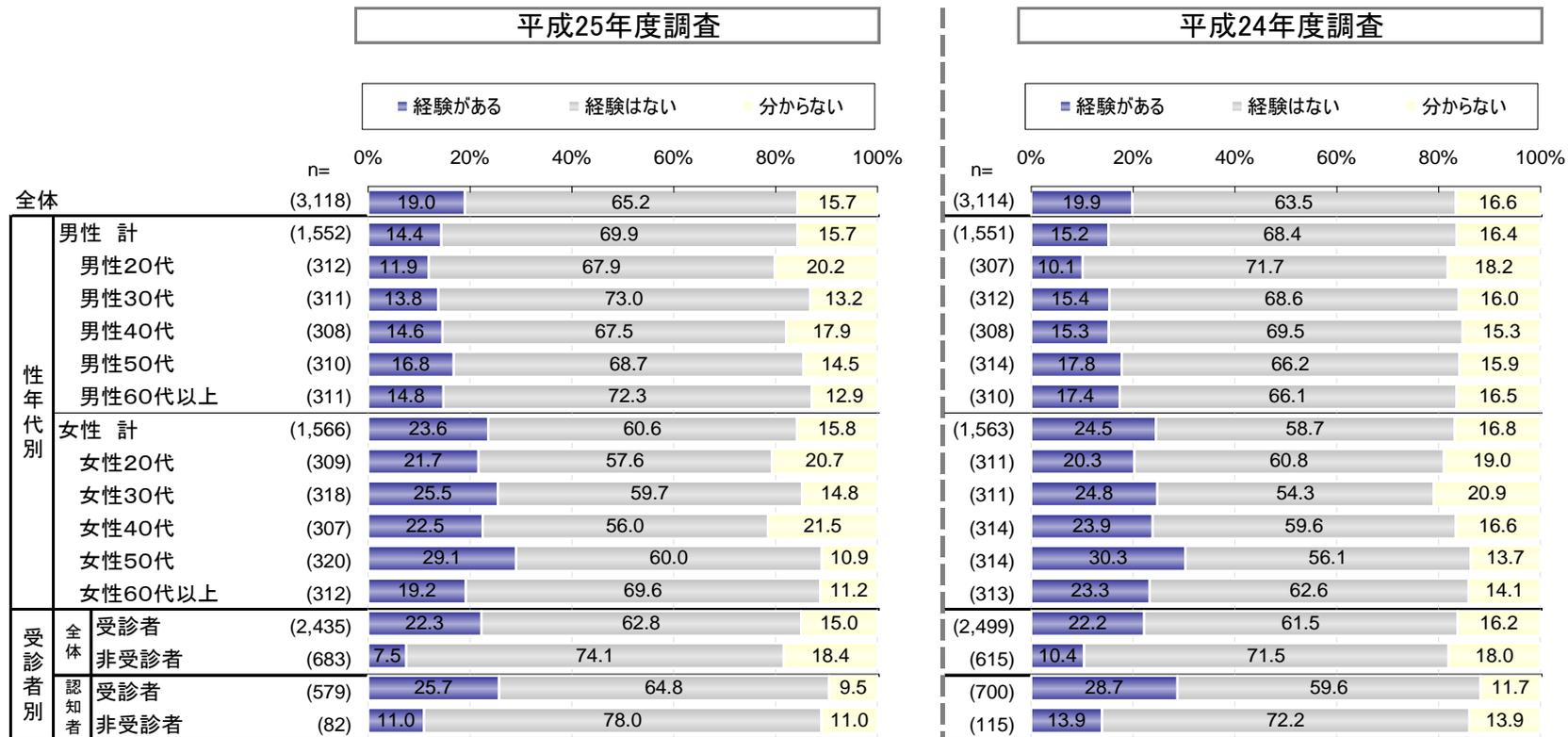
・周知の方法としては、「テレビCM/テレビ」が29%と最も高く、「病院で告知/医師からの説明(ポスターやチラシ、パンフレットなど)」21%、「薬局・ドラッグストアで告知/薬を渡すときに説明(ポスターやチラシ、パンフレットなど)」18%が続く。

Q22 副作用の経験（本人）

単一回答

H25 Q22 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

H24 Q21 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。



- ・医薬品による副作用と思われる経験が「ある」は19%で、昨年と同水準。
- 【性・年代別】
- ・女性の方が副作用と思われる経験があり、女性50代では29%とやや高め。
- 【受診者別】
- ・全体ベースで受診者の22%に副作用と思われる経験がある。

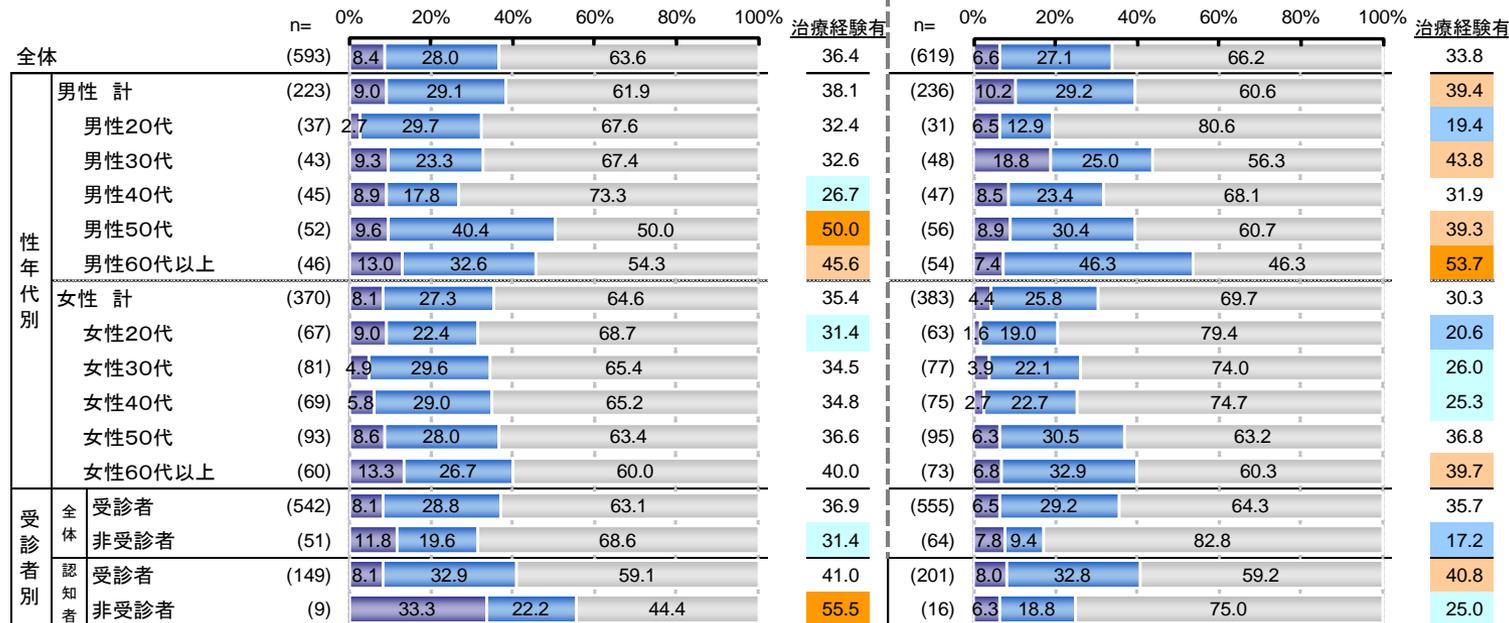
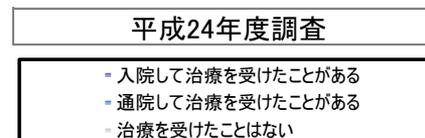
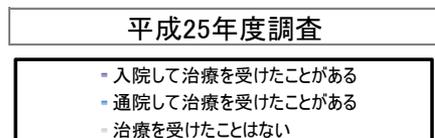
Q23 副作用で治療を受けた経験

単一回答

H25 Q23 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。

H24 Q23 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。

副作用経験者ベース



・医薬品による副作用経験者のうち、医療機関で医薬品による副作用の治療を受けた経験が「ある」は36%。

【性・年代別】

・男性50代・60代で治療を受けた経験が高め。

Q24 医薬品副作用被害救済制度を利用した経験

単一回答

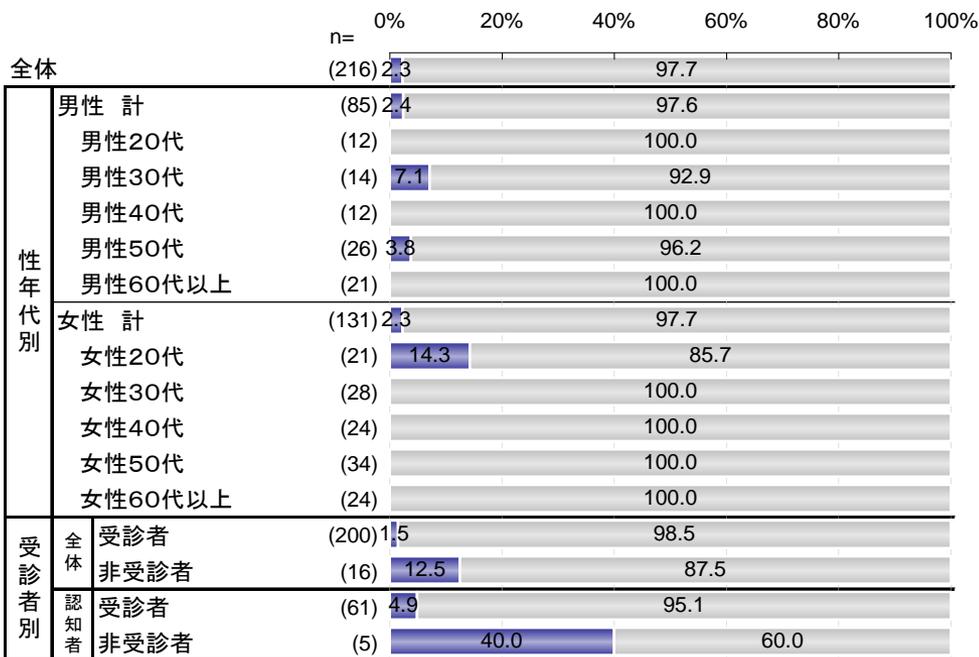
H25 Q24 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

H24 Q24 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

副作用で入院・通院の治療経験者ベース

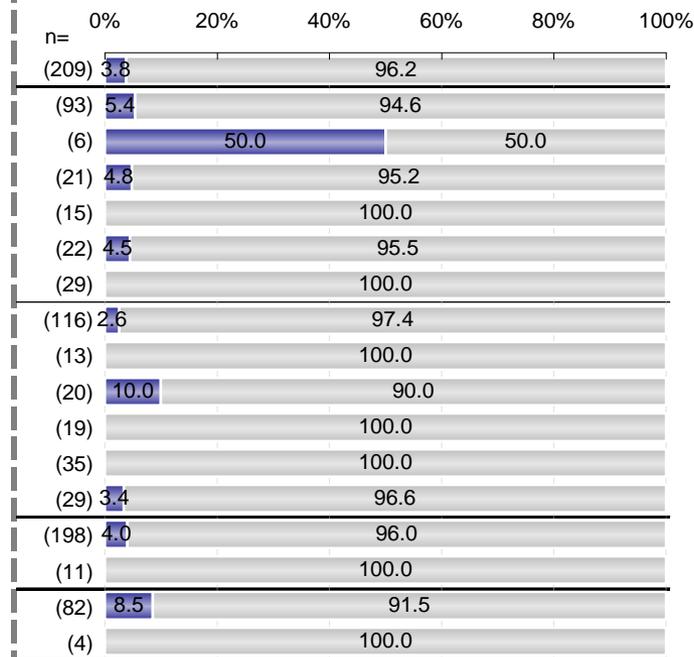
平成25年度調査

■ 利用したことがある ■ 利用したことはない



平成24年度調査

■ 利用したことがある ■ 利用したことはない



・医薬品の副作用による入院・通院の治療経験者のうち、医薬品副作用被害救済制度の利用経験は2%。

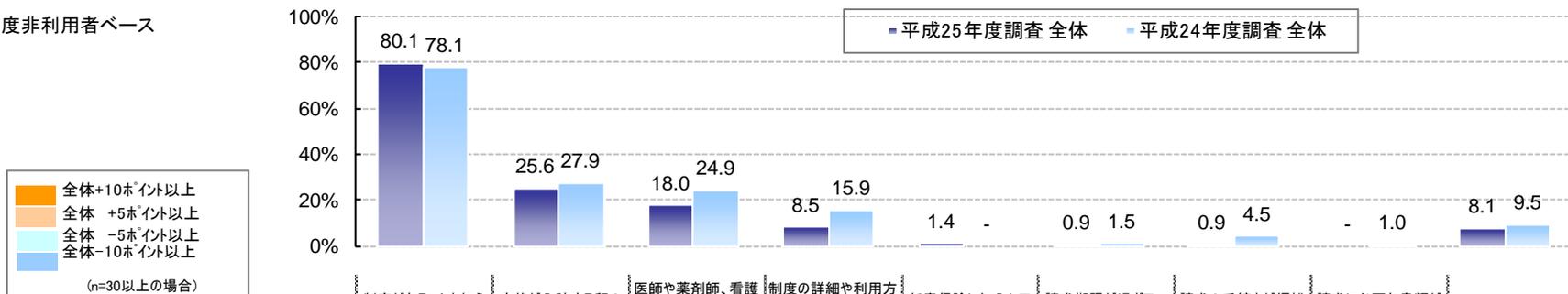
Q25 医薬品副作用被害救済制度を利用しなかった理由

複数回答

H25 Q25 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q25 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

制度非利用者ベース



		n=	制度があることを知らなかったから	症状が入院する程のことではなかったから	医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから	制度の詳細や利用方法が分からなかったから	任意保険に加入しているから	請求期限が過ぎていたから	請求の手続きが煩雑そうだから	請求に必要な書類が整わなかったから	その他	
平成25年度調査 全体		(211)	80.1	25.6	18.0	8.5	1.4	0.9	0.9	-	8.1	
性年代別	男性 計	(83)	77.1	20.5	12.0	6.0	2.4	1.2	2.4	-	6.0	
	男性20代	(12)	91.7	8.3	-	-	-	-	-	-	-	
	男性30代	(13)	61.5	23.1	15.4	7.7	7.7	-	-	-	7.7	
	男性40代	(12)	75.0	16.7	8.3	-	-	-	8.3	-	8.3	
	男性50代	(25)	72.0	24.0	12.0	4.0	-	-	-	-	12.0	
	男性60代以上	(21)	85.7	23.8	19.0	14.3	4.8	4.8	4.8	-	-	
	女性 計	(128)	82.0	28.9	21.9	10.2	0.8	0.8	-	-	-	9.4
	女性20代	(18)	88.9	22.2	16.7	5.6	-	-	-	-	-	5.6
	女性30代	(28)	75.0	35.7	32.1	14.3	3.6	3.6	-	-	-	7.1
	女性40代	(24)	79.2	37.5	12.5	8.3	-	-	-	-	-	4.2
女性50代	(34)	82.4	23.5	20.6	14.7	-	-	-	-	-	8.8	
女性60代以上	(24)	87.5	25.0	25.0	4.2	-	-	-	-	-	20.8	
受診者別	全体	(197)	79.2	26.4	17.8	8.6	1.5	1.0	1.0	-	8.6	
	受診者	(14)	92.9	14.3	21.4	7.1	-	-	-	-	-	
	非受診者	(58)	58.6	36.2	19.0	15.5	5.2	3.4	1.7	-	13.8	
	受診者	(3)	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	
平成24年度調査 全体		(201)	78.1	27.9	24.9	15.9	-	1.5	4.5	1.0	9.5	

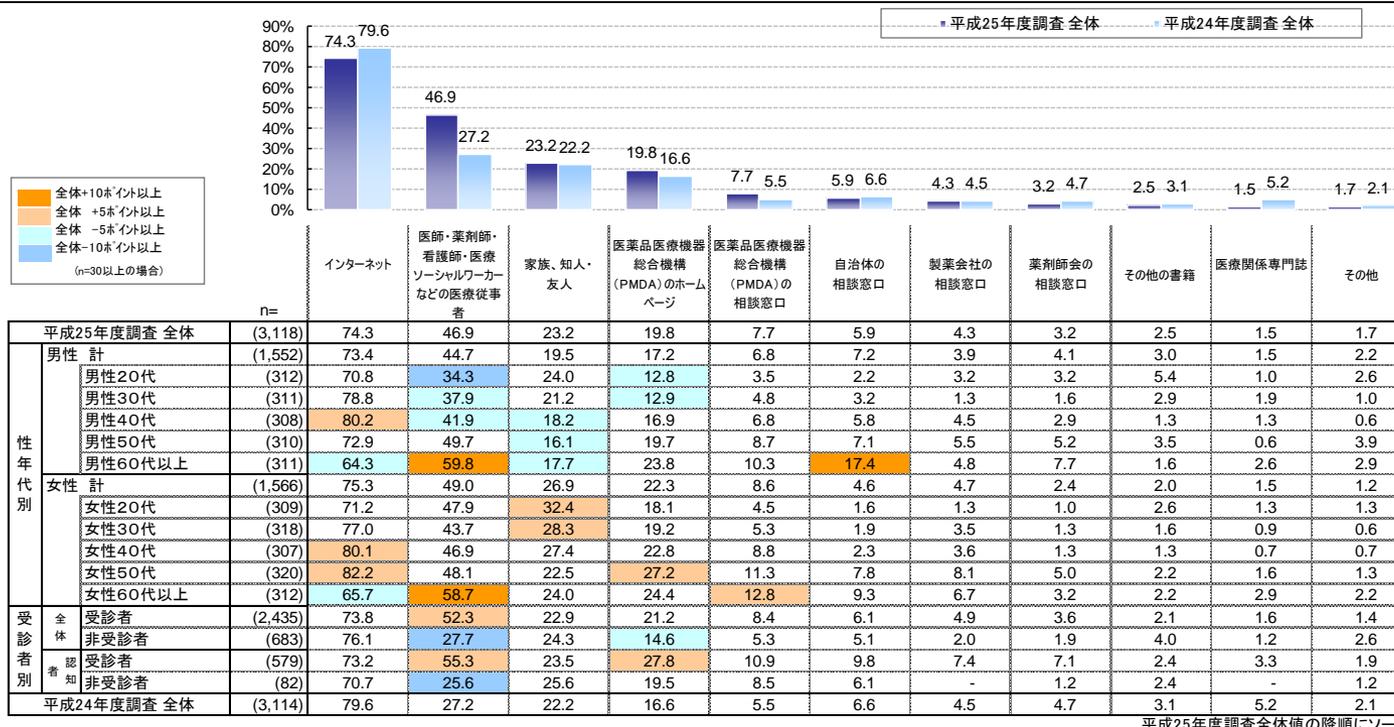
・制度を利用しなかった理由は、昨年と同様「制度があることを知らなかったから」が最も高くなっている。

Q26 医薬品副作用被害救済制度 情報収集の方法

複数回答

H25 Q26 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q26 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。



平成25年度調査全体値の降順にソート

・よく利用されている情報収集の方法として、「インターネット」74%、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」47%、「家族、知人・友人」23%が上位となっている。昨年と比較し「インターネット」はやや下降、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」は大きく上昇している。

【性・年代別】

・高年齢層は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」が高い。「男性60代」では「自治体の相談窓口」も高め。

【受診者別】

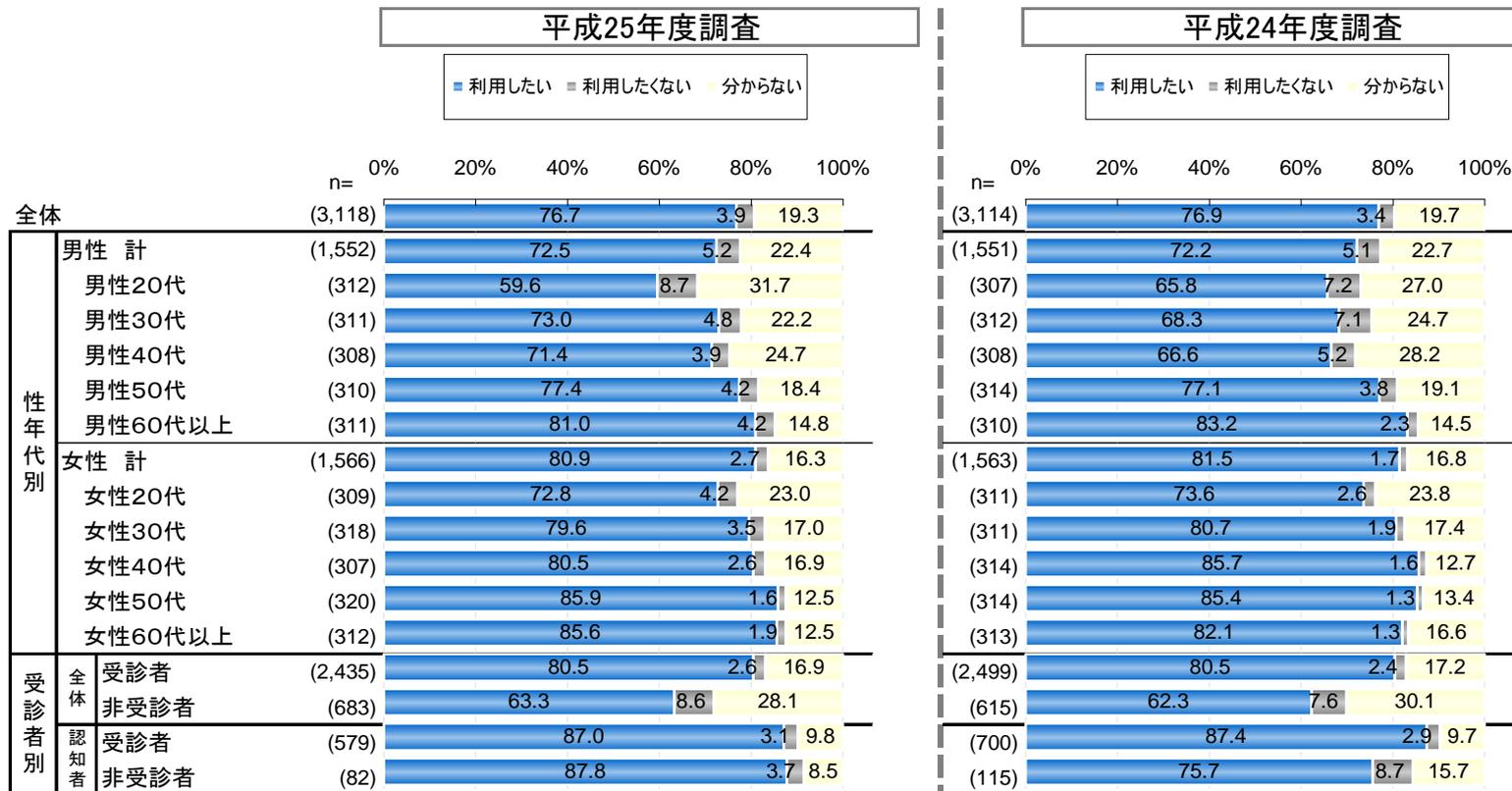
・「受診者」は、「医師・薬剤師・看護師などの医療従事者」が高くなっている。

Q27 医薬品副作用被害救済制度 今後の利用意向

単一回答

H25 Q27 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。

H24 Q27 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いますか。



今後の利用意向は77%。

【性・年代別】

・今後の利用意向は、男性と比べて女性の方が高い。男性60代以上、女性40代以上では、利用意向が80%を上回っている。

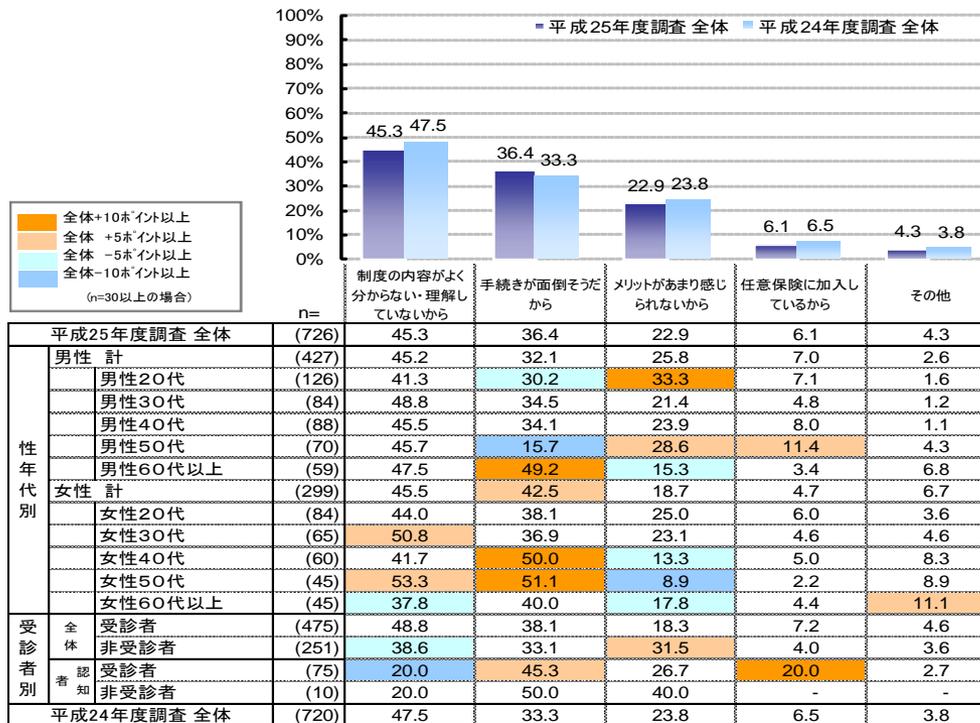
Q28 医薬品副作用被害救済制度 利用したくない理由

複数回答

H25 Q28 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したくない、分からないと回答された理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

H24 Q28 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したくない、分からないと回答された理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

制度非利用意向者ベース



・制度を利用したくない理由は、「制度の内容がよく分からない・理解していないから」が45%。以下「手続きが面倒そうだから」36%、「メリットがあまり感じられないから」23%と続く。

【性・年代別】

・「手続きが面倒そうだから」は、男性60代以上、女性40代・50代で高め。

付録：調査票

〔平成25年度調査〕

Q1 あなたは、過去1年以内に医療機関にかかりましたか。

(回答は1つ)

- はい
- いいえ

Q2 あなたは、過去1年以内に医療機関をどのように利用(入院・通院)しましたか。

(回答は1つ)

- 入院した
- 入院はしていないが通院した
- 入院し、別途通院もした

Q3 あなたは、過去1年以内にどのような規模の医療機関をもっとも多く利用(回数)しましたか。

(回答は1つ)

- 病院(ベッド数20床以上)
- 診療所、クリニック、医院など

Q4 あなたが、過去1年以内に利用された病院はどこですか、もっとも多く利用されたところをひとつお選びください。

(回答は1つ)

- 国立病院
- 大学病院
- 自治体病院
- 日本赤十字社病院(日本赤十字社医療センター、〇〇赤十字病院など)
- 済生会病院(済生会〇〇病院、〇〇済生病院など)
- 厚生連病院(厚生連〇〇病院、〇〇厚生病院など)
- その他(上記以外の病院) 具体的に:

Q5 あなたは、過去1年以内に医薬品(薬)を使用しましたか。

(回答は1つ)

- 医療機関で処方された医薬品を使用した
- 市販されている医薬品を使用した
- 医療機関で処方された医薬品、市販されている医薬品ともに使用した
- 使用していない

Q6 あなたは、その医薬品をどこで購入(入手)しましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 院内処方 (医療機関の中にある薬局または調剤窓口)
- 院外処方 (医療機関の外にある薬局・ドラッグストアの調剤窓口)
- 薬局 (院外処方を除く)・薬店 (ドラッグストア)
- コンビニエンスストア
- 通信販売
- 置き薬 (配置薬)
- 勤務先・学校
- その他 具体的に：

Q7 あなたは、副作用が起きたときに、医療費等の救済給付を行う公的な「医薬品副作用被害救済制度」があることをご存じですか。

(回答は1つ)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

Q8 あなたは、輸血用血液製剤などを介して感染などが発生した場合に、医療費等の救済給付を行う公的な「生物由来製品感染等被害救済制度」があることをご存じですか。

(回答は1つ)

- 知っている
- 聞いたことがある
- 知らない

Q9 「医薬品副作用被害救済制度」について、以下それぞれにあてはまるものをひとつお選びください。

(回答は1つ)

1/6

医薬品の副作用による被害を受けられた方の迅速な救済を図ることを目的とした公的な制度である

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

3/6

入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

5/6

救済給付には、種類ごとにそれぞれ請求期限がある

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

2/6

医薬品を、適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による疾病や障害などの健康被害について救済給付を行う

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

4/6

救済給付の種類にはいくつかの種類がある (医療費・医療手当・障害年金・障害児養育年金・遺族年金・遺族一時金・葬祭料)

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

6/6

救済給付の請求には、医師が作成した診断書などが必要である

- 知っている
- 知らない
- 分からない

次を表示

Q10 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」をどのようにして(何から)知りましたか。または、どのようにして(何から)聞きましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> テレビ放送	<input type="checkbox"/> お薬手帳・薬袋
<input type="checkbox"/> ラジオ放送	<input type="checkbox"/> 雑誌
<input type="checkbox"/> 新聞	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) のホームページ
<input type="checkbox"/> 医薬品の外箱・説明書	<input type="checkbox"/> インターネット
<input type="checkbox"/> ポスター・ステッカー・看板	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) 主催、学会等のシンポジウム
<input type="checkbox"/> パンフレット・リーフレット	<input type="checkbox"/> 聞いた/教えてもらった
<input type="checkbox"/> 病院・診療所 (クリニック) の院内ビジョン	<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

Q11 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、誰から知りましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 医師	<input type="checkbox"/> 家族
<input type="checkbox"/> 薬剤師	<input type="checkbox"/> 知人・友人
<input type="checkbox"/> 看護師	<input type="checkbox"/> 薬剤師会の相談窓口
<input type="checkbox"/> 医療機関の事務担当者	<input type="checkbox"/> 製薬会社の相談窓口
<input type="checkbox"/> 医療ソーシャルワーカー	<input type="checkbox"/> 医薬品医療機器総合機構 (PMDA) の相談窓口
<input type="checkbox"/> 自治体の職員・保健所の職員	<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>
<input type="checkbox"/> 弁護士	

Q12 あなたは「医薬品副作用被害救済制度」のポスター・ステッカー・看板、パンフレット・リーフレットをどこで見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

<input type="checkbox"/> 交通広告 (電車・駅構内)
<input type="checkbox"/> 薬局・薬店 (ドラッグストア)
<input type="checkbox"/> 病院・診療所 (クリニック)
<input type="checkbox"/> 自治体・保健所などの公共機関
<input type="checkbox"/> その他 具体的に: <input type="text"/>

■以下の広告(新聞広告、ポスター、バナー)をご覧になってからお答えください



<バナー広告>

Q13 あなたは、これまでこれらの広告をひとつでも見たことがありましたか。

(回答は1つ)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

Q14 あなたは、どこでこの広告を見ましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 新聞(朝日・読売・毎日・産経・日経の全国紙)
- 薬局・薬店(ドラッグストア)
- 病院・診療所(クリニック)
- 自治体・保健所などの公共機関
- インターネット(Yahoo!、MSN)
- その他 具体的に:
- 思い出せない

Q15 広告(新聞広告、ポスター、パンフ)をご覧ください。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

(回答は1つ)

1/5

役に立つ情報が得られた

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/5

内容がよく理解できた

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/5

興味や関心を呼んだ

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

4/5

印象(記憶)に残った

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

5/5

医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページにアクセスしたくなった

そう思う

ややそう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

■以下のCMをご覧になってからお答えください。

※この動画は音声流れます。

音量をONにして、音声とともにご覧ください。(聞き取りにくい場合は音量を大きくしてください)

※ファイルを再生する準備が完了していますが、画像が表示されない場合がございます。

画面を押して、動画を最後までご覧になってからお答えください。

※動画は場合によっては表示に時間がかかる場合がございます。

Q16 あなたは、テレビでこのCMを見たことがありますか。

(回答は1つ)

- 見たことがある
- 見たような気がする
- 見たことはない

Q17 あなたは、このCMを何回くらいご覧になりましたか。

(回答は1つ)

- 1回
- 2回以上5回未満
- 5回以上

Q18 画像(CM)をご覧になった感想をお聞かせください。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください

(回答は1つ)

1/3

興味や関心を呼んだ

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/3

印象(記憶)に残った

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/3

医薬品医療機器総合機構(PMDA)のホームページにアクセスしなくなった

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない



<ドクトルQ>

Q19 キャラクター（ドクトルQ）をご覧になった感想をお聞かせします。以下それぞれにあてはまると思われるものをひとつお選びください。

（回答は1つ）

1/6

目を引く

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

3/6

好感が持てる

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

5/6

信頼感がある

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

2/6

印象（記憶）に残る

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

4/6

イメージしやすい

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

6/6

キャラクターとしてふさわしい

そう思う

やや
そう思う

あまり
そう思わない

そう思わない

■以下の画像(パンフレット)をご覧ください。からお答えください。

「お薬を正しく使えば副作用は出ないはず…?」

いいえ。正しく使っても、まれに重い健康被害を起こすことがあります。

薬は正しく使っても、副作用によって、まれに入院治療が必要になるほどの重篤な健康被害を引き起こすことがあります。その場合に、医療費や年金などの給付を行う制度が「医薬品副作用被害救済制度」。いざという時のために、あなたもぜひ知っておいてください。

お薬を使うすべての方にとってほしい制度です。

医薬品副作用被害救済制度

請求の方法や給付の種類、救済の対象とならない場合などもご案内しておりますので、まずは電話やメールでご相談ください。

詳しくは **副作用 救済** または **PMDA** で **検索**

救済制度についての詳細は、PMDAにご相談ください。

救済制度 相談窓口 0120-149-931 受付時間: 午前9:00～午後5:00
 〒100-8585 東京都千代田区千代田1-1-1 10F
 Eメール: kyaku@pmda.go.jp **pmda** 独立行政法人 医薬品医療機器総合機構

<パンフレット1ページ>

医薬品副作用被害救済制度の基本

医薬品副作用被害救済制度とは

医薬品副作用被害救済制度は、病院・診療所で処方されたお薬、薬局で購入したお薬を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用により、入院治療が必要な程度の疾病や障害などの健康被害について救済するものです。

※処方されたお薬1日1回以上使用し、医薬品が原因にもつ発生した副作用による健康被害が対象となります。

よくあるご質問にドクトルQがお答えします!

Q. 請求はどのようにすればよいですか?

A. 給付の請求は、健康被害を受けたご本人またはそのご家族が直接、PMDAに、医師の診断書などが必須となります。まずは、電話やメールでご相談ください。

Q. 給付の支給決定はどのようにして決まるのですか?

A. 提出いただきました資料をもとに、厚生労働省が設置し内部調査で構成される「薬害・食品衛生委員会」における審議を経て、支給の可否が決定されます。支給の可否については、PMDAからご連絡いたします。

Q. 給付にはどのような種類がありますか?

A. 給付には7種類あります。
 ①入院治療およびその後の健康被害で医療を受けた場合
 ②医療費 ③医療手当
 ④障害生活費等 ⑤障害年金 ⑥障害者年金
 ⑦障害年金 ⑧遺族一時金 ⑨葬料
給付額は種類ごとに定められています。
 なお、それぞれについて請求期間がございますので、ご注意ください。

Q. 給付の対象にならない場合がありますか?

A. 下記の場合は救済の対象になりません。
 ①医薬品の副作用のうち入院治療を要する程度ではなかった場合や請求期間が過ぎてしまっている場合
 ②医薬品の使用目的、方法が適正と認められない場合
 ③対象外医薬品による健康被害の場合
 ④法定予知情報によるものである場合
 ⑤医薬品の製造販売業者などに損害賠償の責任が明らかの場合
 ⑥致命のため、やむを得ず過剰な使用を認めて医薬品を使用したことによる健康被害で、その発生が明らかとの認識されていたなどの場合

「医薬品副作用被害救済制度」の詳細や「生物由来製品感染等被害救済制度」については、ホームページおよびフリーダイヤルをご利用ください。

<パンフレット2ページ>

Q20 画像(パンフレット)をよくお読みになってからお答えください。あなたは「医薬品副作用被害救済制度」について、どの程度関心が持てましたか。

(回答は1つ)

関心が持た	やや関心が持た	あまり関心が持たない	関心が持たない
-------	---------	------------	---------

Q21 「医薬品副作用被害救済制度」を広く皆様に知っていただくためには、どのような広報が効果的だと思いますか。

(回答は具体的に)

Q22 あなたは、これまでに医薬品による副作用または副作用と思われる経験をしたことがありますか。

(回答は1つ)

- 経験がある
- 経験はない
- 分からない

Q23 あなたが医薬品による副作用にあった際に、医療機関で副作用の治療を受けたことがありますか。

(回答は1つ)

- 入院して治療を受けたことがある
- 通院して治療を受けたことがある
- 治療を受けたことはない

Q24 あなたは医薬品の副作用の治療を受けた際に、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したことがありますか。

(回答は1つ)

- 利用したことがある
- 利用したことはない

Q25 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」を利用しなかった理由について、あてはまるものをすべてお選びください。

【回答はいくつでも】

- 制度があることを知らなかったから
- 制度の詳細や利用方法が分からなかったから
- 医師や薬剤師、看護師などが教えてくれなかったから
- 症状が入院する程のことではなかったから
- 請求期限が過ぎていたから
- 請求の手続きが煩雑そうだから
- 請求に必要な書類が整わなかったから
- 任意保険に加入しているから
- その他 具体的に：

Q26 あなたが「医薬品副作用被害救済制度」や「薬の副作用」について詳細な情報を収集する場合、どのような方法で情報を入手しますか。あてはまるものをすべてお選びください。

【回答はいくつでも】

- 医師・薬剤師・看護師・医療ソーシャルワーカーなどの医療従事者
- 家族、知人・友人
- インターネット
- 医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ
- 医薬品医療機器総合機構（PMDA）の相談窓口
- 製薬会社の相談窓口
- 自治体の相談窓口
- 薬剤師会の相談窓口
- 医療関係専門誌
- その他の書籍
- その他 具体的に：

「医薬品副作用被害救済制度」は、病院・診療所(クリニック)で処方された医薬品や薬局などで購入した医薬品を適正に使用したにもかかわらず発生した副作用による入院が必要な程度の疾病や障害などの健康被害を受けた方に対して、救済給付を行う公的な制度です。

Q27 今後、あなたが制度の対象となるような重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」を利用したいと思いませんか。

(回答は1つ)

- 利用したい
- 利用したくない
- 分からない

Q28 今後、あなたが医薬品の重篤な副作用にあった場合、「医薬品副作用被害救済制度」の利用について [Q27]と 回答されましたが、その理由は何ですか。あてはまるものをすべてお選びください。

(回答はいくつでも)

- 制度の内容がよく分からない・理解していないから
- 手続きが面倒そうだから
- 任意保険に加入しているから
- メリットがあまり感じられないから
- その他 具体的に：

Q29 あなたの性別をお答えください。

(回答は1つ)

- 男性
- 女性

Q30 あなたの年齢をお答えください。

(回答は半角数字で入力)

歳